

文部科学省 大学教育再生加速プログラム  
テーマⅢ（高大接続）



日英中トライリンガル育成のための高大接続

# 事業報告書

2019年度



文部科学省 大学教育再生加速プログラム  
テーマⅢ（高大接続）



大学教育再生加速プログラム



日英中トライリンガル育成のための高大接続

# 事業報告書

2019年度

# 杏林大学 事業報告書

## 目 次

### I. ごあいさつ

|                      |   |
|----------------------|---|
| 時代を先取りした高大連携に向けて     |   |
| 学長 大瀧 純一 .....       | 1 |
| 高大接続のさらなる発展へ         |   |
| 高大接続推進室長 稲垣 大輔 ..... | 2 |

### II. 事業概要・計画

|       |   |
|-------|---|
| ..... | 3 |
|-------|---|

### III. 事業実績と成果の概要

|                                                                      |   |
|----------------------------------------------------------------------|---|
| 大学教育再生加速プログラム テーマⅢ：高大接続<br>「日英中トライリンガル育成のための高大接続」<br>令和元年度実績報告書..... | 7 |
|----------------------------------------------------------------------|---|

### IV. 事業実績の具体的内容

|                                                                  |    |
|------------------------------------------------------------------|----|
| 〈運営〉                                                             |    |
| 1. 事業体制の継続 .....                                                 | 21 |
| 〈高大接続〉                                                           |    |
| 2. 「杏林 AP ラウンドテーブル」の開催 .....                                     | 22 |
| 3. 高校と大学をつなぐ FD/SD の開催 .....                                     | 25 |
| 4. 連携高等学校との意見交換 .....                                            | 26 |
| 〈教育／行事〉                                                          |    |
| 5. ライティングセンターの活動実績と成果 …<br>2019-2020 Writing Center Report ..... | 29 |
| 6. アドバンスト・プレイスメントの実施と<br>生徒募集 .....                              | 34 |
| 7. 大学教養レベル「グローバル関連科目」<br>高校生への開放 .....                           | 36 |

|                                                                 |    |
|-----------------------------------------------------------------|----|
| 8. グローバル関連科目・COC 関連科目の<br>高校生へ開放 .....                          | 37 |
| 9. 英語キャンプの実施 .....                                              | 38 |
| 10. 中国語研修の実施 .....                                              | 39 |
| 11. 英語プレゼンテーションコンテストの実施、<br>中国語カラオケ・朗読・吹き替え大会 …                 | 40 |
| 12. IELTS 対策講座と試験の実施 .....                                      | 42 |
| 13. ルーブリックの入学試験での利用 .....                                       | 43 |
| 14. 高等学校での講演 .....                                              | 44 |
| 〈波及効果〉                                                          |    |
| 15. 中高生と大学生の高大連携ボランティア活動<br>.....                               | 46 |
| 16. 都立青梅総合高等学校と昭和鉄道高等学校の<br>生徒がインターンシップを体験 .....                | 48 |
| 17. 都立三鷹中等教育学校生徒が職場見学と<br>職場体験 .....                            | 49 |
| 18. テキサス A & M 大学のインターンシップ生<br>が都立青梅総合高等学校のプレゼン交流会に<br>参加 ..... | 50 |
| 19. 聖徳学園高等学校の生徒が医学部代謝生化学<br>教室で体験実習 .....                       | 51 |
| 20. 稲垣高大接続推進室長が都立杉並総合高等学校<br>の課題研究発表会に出席 .....                  | 52 |
| 21. 都立調布南高等学校の学校運営連絡協議会に<br>出席 .....                            | 53 |

|                                           |    |
|-------------------------------------------|----|
| 22. 総合政策学部 馬田啓一賞を武蔵野大学<br>高等学校生徒が受賞 ..... | 54 |
|-------------------------------------------|----|

〈広報活動〉

|                 |    |
|-----------------|----|
| 23. 広報・取材 ..... | 55 |
|-----------------|----|

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 24. 平成 30 年度の事業報告書の作成と配布<br>..... | 56 |
|-----------------------------------|----|

〈会議開催日程一覧〉

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 25. 杏林 AP 推進委員会 ..... | 57 |
|-----------------------|----|

|                     |    |
|---------------------|----|
| 26. 高大接続推進委員会 ..... | 58 |
|---------------------|----|

## V. 事業の評価：平成 30 年度事業を対象に

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 第三者評価委員会の開催と評価結果..... | 59 |
|-----------------------|----|

## VI. 事業推進組織 委員一覧

|       |    |
|-------|----|
| ..... | 61 |
|-------|----|

# I. ごあいさつ

## 時代を先取りした高大連携に向けて

学長 大瀧 純一



様々なメディアを通して情報が溢れている現在社会においては、必要な情報を見つけて分析・共有することは難しい状況になっています。また、少子高齢化や都市集中の問題などは、様々な分野で人的負担も大きくなっており、それらの負担を軽減する方法として、Internet of Things (IoT)、Artificial Intelligence (AI)、ドローンを活用した様々な試み、自動運転の車などが挙げられ、最新テクノロジーの活用による快適な社会 Society 5.0 を目指して動いているところです。この Society 5.0 を支える人材の養成は重要で、その中でも学校教育には多くの期待が寄せられています。例えば、2018 年度から小学校でプログラミングや英語が教科になるなど、教育の内容が大きく変わり、教育改革が進められています。世界の様々な地域で活躍できる人材の養成を重視した教育が大きな流れとなっていると言えます。

こうした中、杏林大学では、2014 年度に外国語学部を中心とする文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」に採択されました。テーマは「日英中トライリンガル育成のための高大接続」です。初年度こそ外国語学部中心の取り組みでしたが、2 年目、3 年目になるにしたがい、外国語学部を核として総合政策学部と保健学部にも取り組みが広がり、語学 +  $\alpha$  の形で高校生に大きな影響を及ぼしております。日本語、英語、中国語を駆使し、総合政策学部や保健学部の様々な分野での大学レベル教育の提供が行われ、高校生が大学で学ぶ意義をくみ取り、将来への指針となり得るものであると確信しております。

一方、高校の先生方との意見交換の場として、高大接続ラウンドテーブルを定期的に開催し、きめ細かな情報交換をしております。それらの連携体制の結果、参加高校も増加し今日に至っております。高校生がしっかりと目的意識を持って大学に入学し、Society 5.0 を支える人材として地域貢献の重要性とグローバル化が進む経済社会の中で活躍できるように高校の先生共々努力しております。教育関係者のみならず皆様方のご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

## 高大接続のさらなる発展へ

高大接続推進室長 稲垣 大輔



平成 26 年度大学教育再生加速プログラム（AP）テーマⅢ：高大接続として採択された事業「日英中トライリンガル育成のための高大接続」は、昨年度で補助期間 6 年間を終了しました。この間、学外、特に連携高校の皆様、そして学内の関係者の皆様に支えられて無事に事業を継続していただくことができました。まずは、皆様に心より御礼申し上げます。

本事業は、グローバル人材育成に積極的に取り組んでいる高等学校との高大連携・高大接続を主眼として、より効率的かつ効果的にグローバル人材育成を加速させることを目的として実施されてきました。採択後、毎年、日英中トライリンガルキャンプという宿泊型学修機会を提供し、留学経験者や海外からの留学生を中心とする本学学部生と高校生の皆さんが学年や学校の枠を超えて交流し、英語・中国語・日本語の重要性を実体験してもらってきました。しかし、最終年度は 3 月に実施予定で申込みもしていただきましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止せざるをえませんでした。

コロナ禍以前は、計画された事業を順調に実施することができました。井の頭キャンパスにある保健学部、総合政策学部、外国語学部の 3 学部が、夏季休業期間に、高校生対象の「アドバンストプレイスメント科目」「グローバル関連科目」を開講しました。10 月の大学祭時には、高大接続した形での英語プレゼンテーションコンテスト、中国語朗読・吹替え大会を実施しました。ライティングセンターでは、特任講師の指導のもと、学部 3・4 年生の上級生がピアチューターとして下級生や高校生の語学力向上のための学修支援に取り組んでいます。高校生対象のライティングセミナーも実施し、高校生の自己表現能力の向上に一役買っています。一方、教職員も、グローバル人材育成に積極的に取り組んでいる高等学校関係者と、互いの教育目標や教育内容・方法についての相互理解を図るため、杏林 AP ラウンドテーブルと呼ぶ意見交換会を継続し、補助期間中に通算 15 回開催いたしました。

高校在学中に大学で授業を履修し、大学入学後に大学の卒業に必要な単位として認定するアドバンストプレイスメントも実施し、桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の 3 大学とも単位互換協定を締結して、より多くの大学で修得した単位を認めてもらえるよう制度普及を図りました。より多くの高校生の皆さんが、このアドバンストプレイスメントという制度を用いて、大学入学後に留学にチャレンジしたり、主体的に学びの質を向上させ、より充実した大学生活を送っていただきたいと願っています。

杏林大学では本事業で築いた高大連携・制度・施設をこれからも積極的に活用し、高大接続を発展させてまいります。引続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## Ⅱ．事業概要・計画

本事業は、平成 24 年度に文科省補助事業のグローバル人材育成事業に採択されたことを受け、その成果を高大接続に波及させることを目的としている。

4つの柱として、①アドバンストプレイスメント制度の導入、②ループリックの開発と入試での使用、③高校生と大学生が共に学ぶ多彩な学修イベントの開催、④英語のライティング力の向上のためのライティングセンターの設置と運営である。

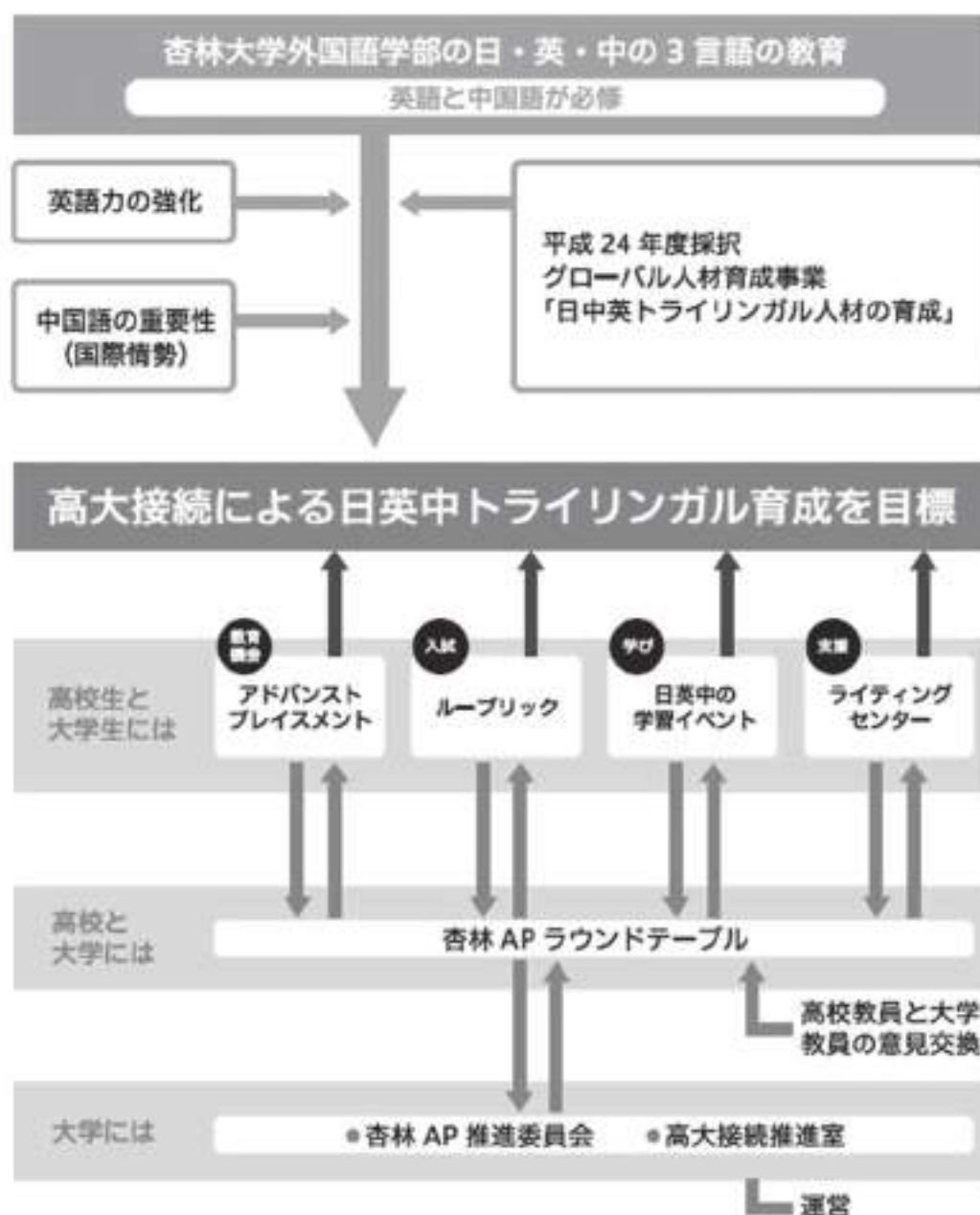
高校側と定期的に意見交換する「杏林 AP ラウンドテーブル」を開催して、高校側の要望を取り入れている。

学内的には、学長、4 学部長が委員となっている杏林 AP 推進委員会および実務と事業の実質的運営を取り仕切る高大接続推進室（高大接続推進委員会）で、事業の方針、運営、成果の検証などを行い、事業をより良く推進している。

こうした事業の柱となる事業項目の概要を以下のイラストとしてまとめた。



## 「日英中トライリンガル育成のための高大接続」

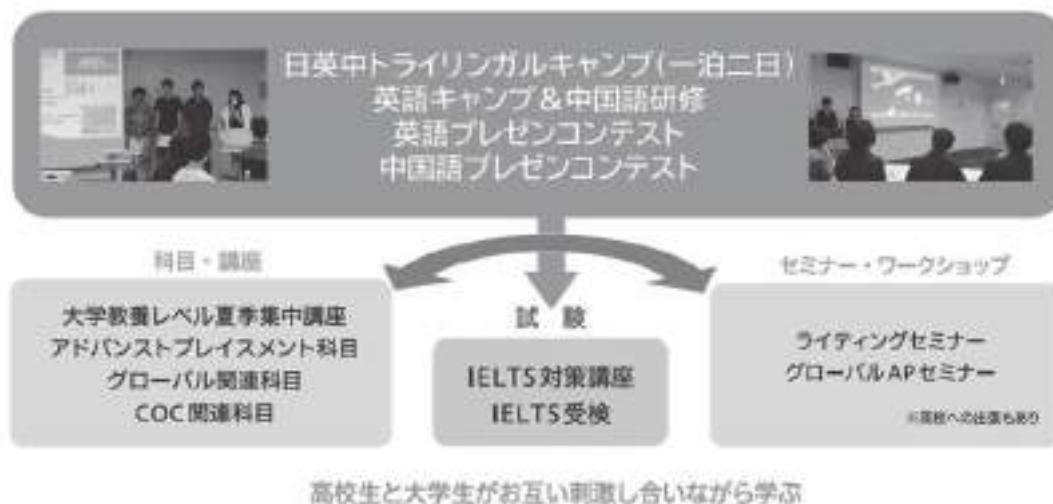




## アクティブラーニング

Active Learning

高度な「問題発見力」「問題解決力」「自己表現力」を  
総合的に身に付けたグローバル人材を育成します。



## ライティングセンター

Writing Center

連携高校の高校生が自分たちの書いた英文について  
教員や学生チューターから、添削指導を受けることができる学習施設です

- 催 事** ライティングセミナー(高校生向け)の開催
- 目 的** 留学に必要な英語ライティングの指導  
英語レポートの作成・添削
- 対 象** 大学生・高校生
- 内 容** 1対1 又は グループで行います

要予約  
飛び込みも  
OKです



## Ⅲ．事業実績と成果の概要

### 大学教育再生加速プログラム テーマⅢ（高大接続） 「日英中トライリンガル育成のための高大接続」 令和元年度実績概要

#### 補助事業の目的

本補助事業「日英中トライリンガル育成のための高大接続」は、文部科学省が指定したスーパーグローバルハイスクール（SGH）、SGH アソシエイト、あるいは、指定されなかったがグローバル人材育成に積極的に取り組んでいる高等学校との有機的な高大接続を通して、より効率的かつ効果的にグローバル人材育成を加速することを目的としている。母語である日本語に加え、英語・中国語を操るトライリンガルになることは、「世界経済の中核を担っている英語圏・中国語圏に伍する日本社会の未来を築く」ため、そして、「地球上のより多くの人とコミュニケーションを通して世界の発展に寄与する」ために極めて有益であるという、本学のグローバル人材育成が拠って立つ認識を高校生にも普及し、高校生・大学生という立場を超えて、ともにグローバル人材を目指す若者が協力し合いながら意欲・能力を涵養しうる一貫した取組を推進していく。その過程で、「大学による高等学校への学修機会の提供」に加え、本学が学生の成長を促す支援の一環として推奨してきた「ピアサポート」すなわち「大学生（留学生を含む）による高校生への学修機会の提供」も意欲的に実施し、「上級生が主体的に下級生に範を示すことによって自らの人格・能力を磨く」というピアサポートの風土の醸成をより一層加速させていく。高校生・大学生、さらには高等学校・大学の教職員が一体となっ

た包括的高大接続を積極的に展開することにより、補助期間終了後も持続的かつ自立的に機能しうる体制の構築ならびにノウハウの集積を図る。

本学は、理事長・学長の強いリーダーシップのもと、「グローバル人材育成」ならびに地域社会の知的基盤となるべく「社会変革のエンジンとなる大学」「地域から世界へ進化する大学」を目指している。本補助事業は、高大接続の観点から、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成」という社会の要請に着実に応える教育的基盤の整備・運用の実質化を試みるものであり、将来的には日本における高大接続のモデルケースとなるべく成果を広く波及させることも目指していく。

#### 補助事業の実績

##### （1）全体

##### （1）本年度

本補助事業の本年度の目標は、井の頭キャンパスにおける高大接続の継続実施である。平成 26 年度より 4 年半をかけて堅調な軌道に乗り始めた「日英中トライリンガル育成のための高大接続」を推進するために、「大学教育再生加速プログラム（AP）推進委員会」（委員長：学長）・「高大接続推進室」・「ライティングセンター」の学内組織と、連携協定締結

校（事業開始後、順天高校、関東国際高校、県立神奈川総合高校、都立武蔵村山高校、大成高校、日出学園高校、都立調布南高校の7校追加）をはじめとする高等学校との連携協議の場（「杏林 AP ラウンドテーブル」）を有機的に機能させながら、平成 28 年度に開設した井の頭キャンパスにおいて、申請計画調書に記載したさまざまな高大接続事業を継続実施する。杏林 AP ラウンドテーブルを継続開催し、そこから得られた協議結果を各事業内容に反映し、補助期間終了後の継続的实施も射程に入れながら、効果的な高大接続事業を進展させていく。また、平成 29 年度より実施し始めた「アドバンスト・プレイスメント」を本年度も継続実施し、意欲のある高校生に対する学修機会を積極的に提供していく。本学でアドバンスト・プレイスメントによって修得した単位を入学後に認定する「アドバンスト・プレイスメントによる大学間単位互換協定」を平成 29 年度には桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学と締結したが、連携協定締結大学を増やし高大接続の制度普及を図る。早期留学を可能にするスーパーグローバルクラスの継続的運営、IELTS・TOEFL 対策科目、高校生対象・大学教養レベルグローバル関連夏期集中科目の開講、トライリンガル育成のための英語・中国語教育の強化などの教務関連措置をとり事業進捗を図る。トライリンガルキャンプ、英語キャンプなどの「大学生（留学生を含む）による高校生への学修機会の提供」（ピアサポート）等の高大接続事業は継続し、本年度も高校生への学修機会提供を積極的に展開していく。また、高大接続、入試改革に資することを目的として開発を進めてきた、高校での教育成果測定のための「グローバルルーブリック」の運用については、平成 30 年度入試において事業取組学部である外国語学部では入試選抜方法へ導入したが、本年度も継続実施する。こうした補助事業開始後始めた高大接続事業の継続的運営と、一昨年度に新たに導入したアドバンスト・プレイスメント、ルーブリックの入試における利用を継続実施することによって、計画調書に記した高大接続構想が本格的に具現する見込みである。

本事業最終年度となる令和元年度は、平成 28 年

度井の頭キャンパス開設により本学の教育・研究機能が三鷹市に集約されたことを契機に改善されたキャンパスの立地条件を活かし高大連携・高大接続を加速させた。平成 29 年度より開始したアドバンストプレイスメントを今年度も継続実施し、春学期・秋学期合計で事業取組学部である外国語学部の 35 科目だけでなく、医学部 2 科目、保健学部 5 科目、総合政策学部の 16 科目を含む 58 科目を対象科目として高校生に開放した。今年度も昨年度に引き続き夏期集中科目として保健学部 4 科目、総合政策学部 1 科目、外国語科目 1 科目を開講し、さらに英語キャンプ・中国語研修を加え、高校生履修登録者 207 名、高校生単位認定数 231 単位と目標値 50 名、100 単位を大きく上回る実績となった。桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の 3 大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」を昨年度締結したが、修得した単位がより多くの大学で単位認定される高校生にとってより有益な制度構築を図るため、複数の大学に協定締結の働きかけをした。ライティングセンターの稼働を通じて学生の留学準備の補助機能を強化するとともに、各種学内イベントの高校生への開放や大学全体への事業の波及、それによる各学部教員と高等学校との連携機会の増加を通じて、大学の教育資源をさらに広範囲にわたって高校生に提供した。杏林 AP ラウンドテーブルの継続的開催を通じ、本事業の取組に対する高等学校側からのフィードバックを得る機会を設け、教育効果の向上のための意見交換を定期的を実施した。学内では第三者評価委員会を開催することで、事業の目的・計画の妥当性や事業の進捗・達成状況の点検・評価を行い、課題を客観的な視点から分析し、各種事業の計画・実効性の改善を目指した。高校生への本学が有する教育資源の開放という観点から、「大学教養レベル・グローバル関連科目の夏期集中講座」を実施し、さらに、各種教育イベントの提供という観点からは、高校生と大学生が共に学修する場である「IELTS 対策講座」の継続実施に加え、昨年度に引き続き「英語プレゼンテーションコンテスト」「中国語カラオケ・吹替コンテスト」に高校生の参加を呼びかけ、目的を共有する者が集う場での集中特訓や能動的学修を通じて、高大の参加者に

対し留学に向けた強い意識の醸成を促した。高大接続改革の入試改革として、学力の3要素のうち「主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度」を多面的評価するために開発したルーブリックを、昨年度よりも利用範囲を広め、令和2年度外国語学部AO入試で選抜方法の一部として使用した。

## ① 「アドバンスト・プレイスメント」を継続実施する

平成29年度までに締結した大成高校、順天高校（SGH指定校）、神奈川総合高校、関東国際高校、聖徳学園高校、武蔵村山高校、調布南高校、府中東高校、藤村女子高校の9高校と「アドバンスト・プレイスメントに関する覚書」を継続維持し、学則・規定等を整え、本年度は医学部2科目、保健学部5科目、総合政策学部16科目、外国語学部35科目の春学期・秋学期合計58科目を対象科目としてアドバンスト・プレイスメントを継続実施した。

夏期集中科目としての開講も本年度も継続し、保健学部4科目（基礎生物学・基礎化学・基礎物理学・基礎数学）、総合政策学部1科目（近現代史と現代社会）、外国語学部1科目（目的別英語演習）を開講した。

本年度中にアドバンスト・プレイスメントで単位認定を受けた高校生は合計207人、認定された単位数は231単位となり、目標値50人、100単位を大きく上回る結果となった。

桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の3大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」を締結し、本学入学志望の高校生だけを対象にせず、制度本来の意義を踏まえ、修得した単位がより多くの大学で単位認定される高校生にとってより有益な制度構築を図り、本年度は複数の大学に働きかけを行っているが、先方の大学から正式な協定締結の回答を待っている状況である。

## ② 「ライティングセンター」の運営

ライティングセンターが本年度も継続的に稼働し、ジェイソン・サマービル特任講師によるワークショップで訓練を受けた大学生がピアチューターとして、大学生ならびに高校生の英語ライティングをサポートしてきた。

ライティングセンターと授業の連動に関して、本年度も継続して、特に外国語学部設置科目の中でライティングを扱う科目の科目担当者に、授業の中でライティングセンターの積極的利用を学生に奨励することと、授業の課題作成補助としてライティングセンターの利用斡旋を依頼した。

2019年6月8日、高校生対象英検対策ライティングセミナーが開催され、4名の高校生が参加した。

本学のオープンキャンパスで高校生対象ライティングセミナーがライティングセンターで開催され、6月15日に15名、7月27日は33名、8月17日は24名、合計72名の高校生がライティングセンターで特任講師・大学生ピアチューターのライティング指導を受けた。

在学生のライティングセンター利用者数は、年間稼働月数7カ月として1カ月平均131名に上り、目標値である120名を上回った。

2019年9月～2020年3月 令和2年度のピアチューターの募集を開始し、書類審査ならびに面接を行って、候補者を決定した。内定した候補者はライティングセンターの活動を見学し、次年度のセンター運営の準備を始めた。

## ③ 学内外へ事業の周知

4月～3月 特設サイトを通じて、杏林APラウンドテーブルなどの大学と高等学校の会合、ライティ

ングセンターの活動や、高校生にも開放した「英語キャンプ」、「大学教養レベル・グローバル関連科目の夏期集中講座」、「英語プレゼンテーションコンテスト」、「中国語カラオケ・吹替大会」、「IELTS 対策講座」などの教育的イベント、高等学校教員と大学教員の教育に関する情報交換を目的とした「高校と大学をつなぐ FD/SD」、高校生と大学生の交流・協働学修をテーマとした「日英中トライリンガルキャンプ」などの活動について、継続的に発信を行った。

4 月～3 月 医学部・保健学部・総合政策学部・外国語学部の教員による高校生への特別指導や高等学校訪問講義についても継続的に発信し、大学全体としての取組の実績を強調した。

10 月 26 日、AP 事業テーマⅢ「入試改革・高大接続」採択校合同シンポジウムが、「AP 東京八重洲通り」を会場にして、大学、高校、予備校の関係者やその他入試改革、高大接続に関心のある 97 名の参加者を迎え開催された。例年、全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会と合わせ、AP ポスターセッションとして開催されていたが、今年度は、幹事校である東京農工大学が主導でテーマⅢに採択されている 8 大学が一同に会し、文部科学省高等教育局専門官からの講演とともに、各大学の取り組みを口頭発表とポスターセッションにより報告する機会となった。本学からは、外国語学部長、高大接続推進室長、国際交流センター長と、2 名の高大接続推進担当職員が出席し、本学のアドバンストプレイスメントの実施状況など、これまでの AP 事業の取り組みについて、坂本学部長が発表を行い、ポスターセッションのブースでは教職員が個々に説明を行い広報活動に取り組んだ。

#### ④ AP 推進委員会、高大接続推進室、ライティングセンターとの連動を継続

4 月～3 月 AP 推進委員会、高大接続推進委員会、高大接続推進室、ライティングセンターとの連動を継続し、2 委員会と 2 組織の情報共有の促進、協力体制の強化、プログラムの調整をより綿密に行った

ことに加え、キャンパス移転を通じて 4 学部のスムーズな連携が可能になったことで、AP 補助事業の全学的な波及に結びついた。

#### ⑤ 「杏林 AP ラウンドテーブル」の継続実施

5 月 20 日 第 14 回杏林 AP ラウンドテーブルを杏林大学井の頭キャンパスで開催し、大成高等学校、関東国際高等学校、聖徳学園高等学校、順天高等学校、都立三鷹中等教育学校、都立青梅総合高等学校、日出学園高等学校、都立羽村高等学校、藤村女子高等学校、都立府中東高等学校、都立調布南高等学校、都立杉並総合高等学校、神奈川県立横浜清陵高等学校、工学院大学附属高等学校、都立東大和高等学校（初参加）の 15 校 23 名が参加して、杏林大学の教職員 19 名と活発な意見交換を行った。

11 月 18 日 第 15 回杏林 AP ラウンドテーブルを杏林大学井の頭キャンパスで開催し、順天高等学校、関東国際高等学校、聖徳学園高等学校、都立青梅総合高等学校、大成高等学校、都立武蔵村山高等学校、日出学園高等学校、都立調布南高等学校、都立東大和高等学校、都立羽村高等学校、都立杉並総合高等学校、工学院大学附属高等学校、神奈川県立神奈川総合高等学校、神奈川県立横浜清陵高等学校に加え、都立昭和高等学校（初参加）、神奈川県立相模原高等学校（初参加）の 16 校 23 名が参加して、杏林大学の教職員 15 名と活発な意見交換を行った。

### (2) 教育

#### ⑥ 高大連携イベントの開催

5 月 25 日、順天高校において、グローバル AP セミナーとして外国語学部長が講演を行った。高校

関係者 93 名（保護者 83 名、教員 10 名）が参加した。

5 月 28 日、井の頭キャンパスにおいて、高校教員対象大学説明会が開催され、出席した高校教員 106 名に対し、高大接続推進室長が、本学の文科省補助事業「大学教育再生加速プログラム～テーマⅢ（高大接続）」について、一連の事業内容を説明した。

7 月 6 日、聖徳学園高校において海外大学進学説明会が開催され、国際交流センター長が、約 30 名の高校生と保護者に対し、本学のアドバンストプレイスメントについて説明を行った。

11 月 26 日、聖徳学園高校のグローバルデーにおいて、国際交流センター長が特別授業を実施した。高校生 33 名が参加した。

10 月 28 日、順天高校のグローバルウィークにおいて、国際交流センター長が特別授業を実施した。高校生 10 名とアメリカ人教員 1 名が参加した。

10 月 30 日、順天高校のグローバルウィークにおいて、外国語学部特任講師が特別授業を実施した。高校生 13 名と教員 3 名が参加した。

12 月 8 日、県立神奈川総合高校における、ワールド・カフェにおいて、国際交流センター長が基調講演を行った。神奈川県内の 17 高校の生徒 155 名が参加した。

6 月 8 日、ライティングセンターにおいて高校生対象英検対策ライティングセミナーが開催され、4 名の高校生が参加した。

7 月 27 日、本学のオープンキャンパスで高校生対象ライティングセミナーがライティングセンターにおいて開催され、33 名の高校生がライティングセンターで特任講師・大学生ピアチューターのライティング指導を受けた。

8 月 17 日、本学のオープンキャンパスで高校生対象ライティングセミナーがライティングセンターにおいて開催され、39 名の高校生がライティングセンターで特任講師・大学生ピアチューターのライティング指導を受けた。

10 月 6 日、英語プレゼンテーションコンテストが開催された。本コンテストは、毎年杏園祭（学園祭）の中で実施されていたが、台風襲来により杏園祭が急遽中止となったため、日程を 1 週間延期して実施した。高校生 3 名と杏林大学生 4 名の 7 名によ

りプレゼンテーションを競い合った。高校からの引率教員ら 4 名も聴衆として参加した。

10 月 16 日、外国語学部中国語学科の教員と学生、関東国際高校の生徒 2 名が参加して、中国語カラオケ・朗読・吹替え大会を開催した。聴衆も含め約 80 名が参加した。

## ⑦ 「教務的制度」の構築

大学教養レベルグローバル関連夏期集中科目を本年度は下記 3 科目を高校生に開放。総計で高校生 16 名、大学生 25 名が履修した。

8 月 26 日、27 日、夏期集中大学教養レベル グローバル関連科目「杏林ガイゴ・ライブラリー（科目 A（中国語）、B（英語））」〈外国語学部〉が開講され、高校生 10 名（うち科目 A4 名、科目 B6 人）、大学生〈総合政策学部〉3 名（全て科目 B）、合計 13 名が受講した。

8 月 29 日、30 日、夏期集中大学教養レベル グローバル関連科目「英語と日本語で学ぶ『社会のしくみ』入門」（科目 C〈総合政策学部〉）が開講され、高校生 6 名、大学生〈総合政策学部、外国語学部〉22 名、合計 28 名が受講した。

8 月 19 日～22 日、高校生対象の夏期集中アドバンストプレイスメント科目を開講した。

科目 A は「近現代史と現代社会」（総合政策学部）、科目 B：基礎生物学、科目 C：基礎化学、科目 D：基礎物理学、科目 E：基礎数学（以上、保健学部）、科目 F：目的別英語演習（外国語学部）が開講され、科目 B,C,D,E は 3 日間連続、科目 A, F は 4 日間連続で、高校生が大学レベルの授業を受けた。高校生の履修終了者数は、科目 A（6 名）、科目 B（29 名）、科目 C（9 名）、科目 D（2 名）、科目 E（26 名）、科目 F（18 名）と合計 90 名の意欲的な生徒が参加した。

4 月～3 月 グローバル関連科目 40 科目、COC 関連科目 11 科目を開講し、高校生にも開放した。学期中の高校生履修者はなく、在学生履修者はそれぞれ、延べで 2,914 名、1,029 名に上った。

## ⑧ 「アドバンスト・プレイスメント」の拡充

2017年3月に桜美林大学、5月に共愛学園前橋国際大学、9月に創価大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」を締結し、以後この連携4大学でアドバンスト・プレイスメントの単位互換を実施していくことになった。

2019年度も複数の大学に働きかけを継続して行っており、11月8日、国際交流センター長と地域交流課高大接続推進担当の職員1名が、本学と同じAP事業に採択された愛媛大学と同大とキャンパスが隣接する松山大学を訪問し、情報交換・連携協定締結のための働きかけを行った。

## ⑨ 教育効果測定を活用

2019年5月 昨年度に引き続き、学力の3要素のうちの一つ「主体性も持って多様な人々と協働して学ぶ力」と、「課題発見とその解決をする力」および「語学力（話す力（対話力＋プレゼンテーション力）、聞く力、書く力、読む力）」に関してのルーブリックを作成し、HP上で公開。同時に、令和2年度外国語学部AO入試でルーブリック・小論文による事前資格審査、事前課題・面接によって選考を行うことを公表した。

## ⑩ グローバル人材育成連携協定新規締結の拡充

2018年11月14日、都立調布南高校と高大連携協定を締結して、目標値の10校を達成している状況の中、本年度も継続して新規締結校を探索している。

## ⑪ 平成30年度事業報告書の配布

5月～7月 事業報告書（平成30年度分）が完成し、特設サイトで公開するとともに、外国語学部・総合政策学部の全専任教員、医学部・保健学部の全教授に1部ずつ配布した。また、連携高等学校、愛知県から北海道までのSGH校、AP事業採択大学に送付した。

## ⑫ 本学と連携高等学校合同による教員研修の実施

5月20日、第14回杏林APラウンドテーブルと同日開催で、第6回高校と大学をつなぐFD/SDを、杏林大学井の頭キャンパスで開催した。高校側からは15校から23名の校長、副校長、進路指導部担当教諭らが参加し、杏林大学からは19名の関係教職員が参加した。参加高校は大成高等学校、関東国際高等学校、聖徳学園高等学校、順天高等学校、都立三鷹中等教育学校、都立青梅総合高等学校、日出国立高等学校、都立羽村高等学校、藤村女子高等学校、都立府中東高等学校、都立調布南高等学校、都立杉並総合高等学校、神奈川県立横浜清陵高等学校、工学院大学附属高等学校、都立東大和高等学校（初参加）であった。

## ⑬ 高校生への学修機会の提供

8月5日、6日、杏林大学井の頭キャンパスにおいて英語キャンプを実施。48名の大学生と9名の高校生、目標値50名を超える合計57名の参加申し込みがあったが、当日欠席者が多発し、実際の参加

---

者は44名（大学生36名、高校生8名）となった。

3月21日、22日の1泊2日で、「日英中トライリンガルキャンプ」を多摩永山情報教育センターにおいて実施予定で、本学在学生11名（チューターとして参加、うち2名は留学生）、本学教職員6名、高校生29名、高校教員2名が参加して、大学生や中国からの留学生とともに協働学修、アクティブラーニングに取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催をやむなく中止した。参加予定であった高校生に対しては、代替措置として本学から学習課題を郵送した。

#### ⑭ IELTS 対策講座の提供

11月16日、11月30日、井の頭キャンパスにおいて本学在学生及び高校生対象 IELTS 対策講座を実施した。杏林大学外国語学部の学生5名、高校生23名、合計28名の意欲的な在学生と高校生が参加した。

### （3）事業の評価

#### ⑮ 自己点検・第三者評価委員会

9月28日 杏林大学井の頭キャンパスにおいて、第三者評価委員会が開催された。外部評価委員として、中学・高等学校の校長（高校教育全般）、大学教授（英語関係）、高校教諭（中国語関係）の3名の委員を招き、本学からは、学長、国際交流センター長、高大接続推進室長、井の頭事務部副部長、地域交流課長が出席した。

10月 AP 推進委員会にて第三者評価書が共有され、外部評価委員より受けた指摘や批判に基づき、具体的な改善案の検討が行われた。

## 補助事業における具体的な成果

### (1) 全体

・全学的アドバンスト・プレイスメントによって、高校生に対して大学入学前に様々な学問分野での大学教養レベルの教育を受ける機会が与えられ、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の大学生と共に学ぶことができるようになった。

・夏期集中科目と英語キャンプ・中国語研修を実施することによって、高校生が履修しやすい環境が整い、207名の高校生が履修登録をし、231単位をアドバンスト・プレイスメントで単位認定した。

・桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の3大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」の締結を維持したことによって、本学入学志望の高校生だけでなく、修得した単位がより多くの大学で単位認定される、高校生にとってより有益な制度となった。

・ピアチューターならびに英語授業担当者の協力を得てライティングセンターの周知を徹底したことで、利用者数・利用回数・稼働率を維持し、留学準備の補助に大きく貢献した。

・ライティングセンター主催の各種セミナーを通じて、高校生と大学生が共に学びあうことによって、高大接続した形でグローバル人材に成長しようとする意識の醸成と具体的技術・能力向上が図られた。

・全学的波及を通じ、外国語学部以外の教員と高校との連携機会が増加したことで、高校生が語学以外の分野でも「グローバル人材」として身に付けるべき素養や知識について大学の教育資源を活用できるようになった。

・杏林 AP ラウンドテーブルを通じて、大学教職員と高校教職員がグローバル人材育成の課題や高大接続改革への対応状況についての意見交換を行い、大学生・高校生の学びの質の向上に繋げた。

・「大学教養レベル・グローバル関連科目の夏期集中講座」の開講や「グローバル関連科目」「COC

関連科目」の高校生への開放を通じて、大学レベルの講義に高校生と大学生が共に参加し、高い意識を共有する高大の学習者が互いに刺激を与えつつ能動的学修に従事する理想的な学びの場が実現した。

・「英語キャンプ」「IELTS 対策講座」等に加え「英語プレゼンテーションコンテスト」「中国語カラオケ・吹替コンテスト」を高校生に開放したことで、国際的な活躍を志す高大の学習者が互いに刺激を与えつつ学ぶ理想的な環境が実現した。

・学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力などの試験・テストで測ることができる力とは異なり、主体性・多様性・協働性という様々な経験によって身に着けた能力を評価測定するルーブリックが入学試験の一部として使用されることにより、授業及び高等学校が行事として指定している経験だけでなく、学校が指定していない留学・海外研修、ボランティア、資格・検定試験、コンテストなどの学外での自主的な経験によって習得した能力が多面的に評価され、大学に進学してそれらの生きる力を伸ばそうとするきっかけが得られた。

#### ① 「アドバンスト・プレイスメント」を継続実施する

入学前に様々な学問分野での大学教養レベルの教育を受ける機会が与えられ、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の大学生と共に学ぶことができるようになった。これは高校生にとって自分の進路を決めるきっかけとなるだけでなく、大学進学後に修得すべき単位が先取りできるようになり、大学での学修がより深く実質的なものにすることができるようになった。さらには将来的には本事業の目的でもあるグローバル人材育成のための留学の早期化・長期化にもつながることになる。

・春学期・秋学期の正規開講科目をアドバンスト・プレイスメントの対象科目として開放しているが、高校生の高校での授業時間割の自由度が低く、通常科目を履修しづらい状況にあるため、今年度も夏期集中科目を8月19日から30日の間に開講したとこ

ろ、多くの高校生が履修登録をし、単位認定された。

・桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の3大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」の締結を維持したことによって、本学入学志望の高校生だけでなく、アドバンスト・プレイスメントによって修得した単位がより多くの大学で単位認定される、高校生にとってより有益な制度となった。

## ② 「ライティングセンター」の運営

・特任講師ならびにピアチューターから個別の指導を受けることで、訪問した学生は英語における自身の長所と短所を見極めることができ、英語ライティング学習に対するより積極的な姿勢が生まれた。

・ライティングセンターのスタッフと英語授業を担当する教員たちの間で協力、調整が行われたことで、指導を受けた学生は英語授業とライティングセンターの活動が相補的であるという認識を強くし、英語ライティング力向上に向けてさらに意欲を高めることとなった。また、継続してライティングセンターの活用を促したことで、ライティングセンターを訪問した学生数・実施した個人チューターセッション回数ともに、センターの稼働率を高水準で維持することに成功した。

・ライティングセンターの在学生利用者数は年間917名にのぼり、実質稼働月数7カ月として月平均131名が利用した。高校生利用者数は年間76名にのぼり、目標値の40名を大きく上回った。

・ピアチューター主導のレビューレッスンは、大学生のみならず、セミナーやオープンキャンパスで大学を訪れていた高校生にも開放され、高校生が語学学習の意欲を高める契機となった。

・「ライティングセミナー」では、参加高校生はピアチューターから個別指導を受けることで客観的に自身のライティングを見つめなおす機会を得た。また、ピアチューターとして参加した大学生側も国際的な諸問題に高い関心を持つ高校生に刺激を受け

つつ、ディスカッションを通じ、ライティングの基本を改めて確認するとともに指導に対するさらなる自信を深めた。

・グローバル人材育成が外国語学部だけではなく全学的に波及し、海外研修や留学に参加する学生が保健学部・医学部・総合政策学部でも増加してきている。ライティングセンターで海外研修や留学の事前研修を受けることによって、留学先での学習にスムーズに入れるようにすることで、グローバル人材育成を加速させることができた。

・事業終了後の2020年度に向けて早期より次年度ピアチューターの募集、採用活動を行ったことで、次年度への引継ぎがスムーズとなり、本事業におけるライティングセンターが果たしてきた活動を停滞させることなくそのまま維持することが可能となる。

## ③ 学内外へ事業の周知

・5月20日に実施した「第6回高校と大学をつなぐFD/SD」では、高校関係者15校から23名、杏林大学からは19名の教職員が参加し、順天中学校・高等学校 長塚篤夫校長を講師に迎え、「高等学校からの主体性評価への期待～ePFと電子調査書の課題～」と題した講演後、参加者との活発な議論が交わされ、今後の高大接続の進展に向けた教職員の意識改革となった。

・8月5日・6日に実施した「英語キャンプ」では、57名の参加申し込みがあったが、当日欠席者が13名で、参加者数は44名となった。3名のネイティブ講師が高校生・大学生の指導に当たり、英語の集中特訓に取り組み、英語によるコミュニケーション能力が向上した。

・8月26日・27日の2日間、夏期集中大学教養レベル・グローバル関連科目「杏林ガイゴ・ライブラリー（科目A（中国語）、B（英語））」が開講され、高校生10名、大学生3名、合計13名が受講し、「グローバル化」というテーマのもとプロジェクト学習に取り組み、英語または中国語でプレゼンテーショ

ンを行い、外国語による情報発信力の向上につながった。

・8月29日・30日の2日間、夏期集中大学教養レベル グローバル関連科目「英語と日本語で学ぶ『社会のしくみ』入門」(科目C〈総合政策学部〉)が開講され、高校生6名、大学生22名、合計28名が受講した。授業は英語での解説が取り入れられ、受講生は英語情報収集能力の向上につながった。

・10月19日、英語プレゼンテーションコンテストが開催された。3つの高校(都立杉並総合高校、県立大和西高校、県立相模原高校)から、高校生の個人3名と杏林大学生4名の7名によりプレゼンテーションを競い合った。高校からの引率教員ら4名も聴衆として参加し、国際的な活躍に向け高い意識を共有する高大の学習者が互いに刺激を与えつつ学びに従事する理想的な環境が実現した。

・10月16日、外国語学部中国語学科の教員と学生、関東国際高校の生徒2名が参加して、中国語カラオケ・朗読・吹替え大会を開催した。高校生と大学生が、中国語でカラオケを歌ったり、漢詩の朗読、映画の吹き替えをして日頃の練習の成果を発表し、聴衆も含め約80名の参加者が会場に詰めかけ、充実した学修機会となった。

④

## AP推進委員会、高大接続推進室、ライティングセンターとの連動を継続

・本補助事業で定期的に行っている事業項目以外にも、総合政策学部教員による順天高等学校での講演、医学部代謝生化学教室教員による聖徳学園高等学校の生徒の指導、保健学部看護学科学学校看護学研究室教員による聖徳学園高等学校の心の健康ボランティアの支援、さらに、「大学教養レベル・グローバル関連科目の夏期集中講座」における総合政策学部教員の担当科目の開講など、他学部教員と高校との連携機会の拡大にも結びつき、より多くの学修機会を高校生に提供できている。

・アドバンスト・プレイスメントの実施にあたり、AP推進委員会の委員長でもある学長の指揮のもと、

全学的に夏期集中アドバンスト・プレイスメント科目6科目を開講したことは、学長のガバナンスが発揮された証左である。

⑤

## 「杏林 AP ラウンドテーブル」の継続実施

・第14回杏林 AP ラウンドテーブルにおいては、今年度予定されているライティングセミナー、英語キャンプと中国語研修、夏期集中アドバンストプレイスメントなどの案内を行った後、第6回高校と大学をつなぐFD/SDを開催した。順天中学校・高等学校 長塚篤夫校長に「高等学校からの主体性評価への期待～ePFと電子調査書の課題～」と題して講演いただき、文部科学省「高大接続システム改革会議」の委員を務めておられた経験を基に、学力の3要素における主体性評価、大学入試における主体性評価、資質・能力としての主体性評価、さらにe-ポートフォリオと電子調査書の課題について詳細な説明を受けた後、活発な質疑応答が行われた。さらに、「主体性評価の観点から杏林大学の入試でルーブリックを用いているのは非常に良い。受験する生徒に対し学びの資質を引き出していくことにつながっているの、将来的に他大学も進めてほしい」との高評価を得た。

・第15回杏林 AP ラウンドテーブルにおいては、10月に開催された中国語カラオケ・朗読大会、英語プレゼンテーション大会の模様(録画)を高校関係者に見ていただいた後、今年度の英語キャンプ、中国語研修、アドバンストプレイスメント(夏期集中科目等)、ライティングセミナーなどの活動について報告を行った。その後、意見交換に入り、今年度から高校教育で新科目となった「探究」に関する話題が提供され、各高校側の状況報告とともに、入試改革と共に変容しつつある大学入学生に対応する大学教育を考える機会となった。また、本学の AP 事業終了後の継続すべき取り組みなどについて意見聴取した。高校側から「大学が中心となり高校関係者と一同に会して情報交換する場を持つことは他に

ない取り組みなのでぜひ継続して欲しい」「最近増加傾向にある中国からの入学者に課題もあるので、中国語・英語のことで力添えをいただきたい」「大学教員に高等学校へ出向いていただいて講義をしてもらう機会は非常にありがたい」などの意見をいただき、次年度以降の補助事業終了後の事業継続に参考となる意見交換の場となった。

## (2) 教育

### ⑥ 高大連携イベントの開催

・順天高校におけるグローバル AP セミナーでは、「グローバルに活躍することの素晴らしさ」と題した講演で、講師自身の留学体験なども踏まえ、留学経験は必ず視野が広がること、学力ではなく最終的には人間力が大切であることなどを、聴衆に向けて発信した。

・本学の高校教員対象大学説明会においては、本学の「日英中トライリンガル育成のための高大接続」という取組の事業内容を紹介し、高校生を対象にしたアドバンストプレイスメント夏期集中講座や大学教養レベルグローバル関連科目夏期集中講座の周知徹底を図り、参加者の増大につながった。

・聖徳学園高校における海外大学進学説明会においては、本学で導入しているアドバンストプレイスメントを紹介することによって、高校生が大学における教育機会を得ることができるという事実認識を深める機会となった。

・聖徳学園高校のグローバルデーにおける特別授業では、“The Man Who Made the First English-English Study Dictionary”というタイトルで講演が行われ、高校生は最初の英英学習辞典を作った人が戦前大分商業高等専門学校にいた A.S.Hornby であり、日本での発明だったことを知って関心を持ち、異文化体験の重要性を認識した。

・順天高校主催のグローバルウィークは、先方が

SGH、本学が AP で採択されて以来、全面協力して開催される行事であるが、今年度も本学から 2 名の教員を派遣してグローバル人材育成を支援することができた。国際交流センター長は“The Man Who Made the First English-English Study Dictionary”、外国語学部特任講師は“Student interAction in English using smArtphone Apps”というテーマでワークショップを行い、高等教育における教育機会を高校生に提供することができた。

・神奈川総合高校主催のワールド・カフェは、県内の 17 高校の生徒 155 名が参加した大規模なイベントで、本学国際交流センター長が出席し、基調講演とフィードバックを行い、高校生の英語によるコミュニケーション能力が向上した。

・「ライティングセミナー」では、参加高校生はピアチューターから個別指導を受けることで客観的に自身のライティングを見つめなおす機会を得た。また、ピアチューターとして参加した大学生側も国際的な諸問題に高い関心を持つ高校生に刺激を受けつつ、ディスカッションを通じ、ライティングの基本を改めて確認するとともに指導に対するさらなる自信を深めた。また、英語での情報発信力を向上させることを目的とした取組によって、現代社会における英語での情報発信力の必要性が認識され、国際舞台で活躍を志す学生に刺激を与えることができた。

・「英語プレゼンテーションコンテスト」「中国語カラオケ・朗読・吹き替え大会」では、国際的な活躍に向け高い意識を共有する高大の学習者が互いに刺激を与えつつ学びに従事する理想的な環境が実現した。

### ⑦ 「教務的制度」の構築

・「杏林ガイゴ・ライブラリー」では、「グローバル化とその先へ」の講義を受講後、個々に外国語学部の専任教員の研究室を訪問し、事前に与えられたテーマ（「グローバル化」）に添って専門分野の話を聞いて回り、予め用意した質問を教員に向けた。2 日目は、午前中「プロジェクト学習」の手法を応用

した受講生同士による議論、発表準備に時間を費やし、午後の最初の時間で、協同作成したパワーポイントの資料の再確認を行った後、班ごとにプレゼンテーションを行った。科目 A 受講者は簡単な中国語を交えて発表し、科目 B 受講者は全員英語でプレゼンを行い、外国語によるプレゼンテーション能力が向上した。

・「英語と日本語で学ぶ「社会のしくみ」入門」では、社会科学系の学問への入門として、英語と日本語を通して、グローバルに見る視点の素地を身に着ける機会となった。

・高校生対象夏期集中アドバンストプレイスメント科目では、いずれも教養レベルの科目でありながら、高校での授業とは異なる大学レベルの教育機会を提供する場となった。

・多くの在学生在がグローバル関連科目や COC 関連科目で学修することによって、杏林大学の目指すグローバル人材育成と地域指向の双方の視点から、さまざまな学修内容を多角的に学ぶ機会となった。

## ⑧ 「アドバンスト・プレイスメント」の拡充

・桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の 3 大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」を締結したことによって、本学入学志望の高校生だけでなく、アドバンスト・プレイスメントによって修得した単位がより多くの大学で単位認定される、高校生にとってより有益な制度となった。

## ⑨ 教育効果測定を活用

・学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力などの試験・テストで測ることができるとは異なり、主体性・多様性・協働性という様々な経験によって身に付けた能力を評価測定するルー

ブリックが入学試験の一部として使用されることにより、授業及び高等学校が行事として指定している経験だけでなく、学校が指定していない留学・海外研修、ボランティア、資格・検定試験、コンテストなどの学外での自主的な経験によって習得した能力が多面的に評価され、それらの「生きる力」を伸ばすために大学進学を目指す高校生を選抜する入試が実施された。

## ⑩ グローバル人材育成連携協定新規締結の拡充

・連携協定では、「杏林大学と当該高等学校が、相互の教育に係る交流・連携を通じて、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学の求める学生像及び教育内容への理解を深め、かつ高校教育・大学教育の活性化を図るために、次のとおり協定を締結する」とし、以下の活動に取り組んでいくことにしている。

- (1) 大学の授業科目への特別聴講生の受け入れ
- (2) 大学の各種公開講座への聴講生の受け入れ
- (3) 大学教員による高校への出張講義
- (4) 教育についての情報交換及び交流
- (5) その他、双方が協議し同意した事項

## ⑪ 平成 30 年度事業報告書の配布

・広く杏林大学の AP 事業の取組を大学の内外に周知することで、学内では、外国語学部だけでなく、医学部・保健学部・総合政策学部の教員による高校生への特別指導や高等学校訪問講義などが継続して行われていることについて情報共有がなされると同時に、杏林大学の本事業の取組の学外での認知度も大いに向上した。

⑫

## 本学と連携高等学校合同による 教員研修の実施

・今年度の高校と大学をつなぐFD/SDは、順天中学校・高等学校 長塚篤夫校長を講師に迎え、「高等学校からの主体性評価への期待～ePFと電子調査書の課題～」と題して講演いただいた。長塚校長は文部科学省「高大接続システム改革会議」の委員を務めた経験を基に、学力の3要素における主体性評価、大学入試における主体性評価、資質・能力としての主体性評価、さらにe-ポートフォリオと電子調査書の課題について講演された。

高等学校教育を通じて身に付けさせる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）の中で客観的に評価しにくいものを高校生が取り組む様々な活動を通して、主体性などの評価をしていけばいいのではないかと議論が進み、入試制度の総合型選抜は生徒の主体性も見する方法になっており、主体性等の選抜における重みをつけるのであれば大学側もアドミッションオフィスなどの体制を整え充実させる必要があるだろうと指摘された。また、新学習指導要領では学力3要素に対応した資質・能力の育成と評価充実が図られることになり、特に高校では探究学習が充実し、主体的な学びが進められることとなった。大学側でその部分を評価してくれないと生徒が主体的に学ぼうとしている点が見えないだろうと指摘。資質・能力としての主体性を評価するには、パフォーマンス、ポートフォリオなどについてはルーブリック基準で評価することが不可欠である。主体性評価を推進する上では、Web出願やe-ポートフォリオ、調査書の電子化をするのがよいとの意見が出ている。杏林大学の入試でルーブリックを示しているのは非常に良い。受験する生徒に対し学びの資質を引き出していくことにつながっているの、将来的に他大学も進めてほしいと本学の取組を評価された。参加した高校関係者・大学関係者は、高大接続改革・入試改革の動向に関する情報収集、改革の主旨を理解する良い機会となった。

⑬

## 高校生への学修機会の提供

・「英語キャンプ」では、ネイティブ教員主導の下、日本語を一切使用しない環境の中で、高い意識を共有する高大の学習者が互いに刺激を与えつつ異文化理解を深めると同時に、英語でのコミュニケーション能力が向上した。

・「日英中トライリンガルキャンプ」では、「グローバル人材育成」というテーマのもと、中国語や英語を用いた活動に従事する予定であった。高校生ならびに大学生が国際語としての英語・中国語を活用しながら、グループワークを行い、2日目にはコンテスト形式で、グループワークの成果を、日本語、英語、中国語の3か国語を用いてプレゼンテーションを行う予定であった。トライリンガルになること、留学経験を積み異文化を体験することの重要性を、高校生、大学生が共に学ぶ良い機会となるはずであったが、感染拡大防止、参加者の健康・安全を最優先するため中止の決断を行った。

⑭

## IETLS 対策講座の提供

・IELTSは留学する際の資格・条件として広く国際的に認知された英語能力試験である。高校生・大学生にとっては英検・TOEICなどの他の試験ほど馴染みがないが、留学を志し、準備するためには是非受検してほしい試験である。本対策講座を受講した生徒・学生は4技能の英語能力を高めるばかりでなく、実際の試験問題を解答することによって高スコアを得点する能力が向上した。

### (3) 事業の評価

#### ⑮ 自己点検・第三者評価委員会

・「毎年度、杏林 AP ラウンドテーブルやアドバンストプレイスメント、日英中トライリンガルキャンプなど継続的に取り組み、その取り組みが広がっていることは評価できる」、「ルーブリックの入試への活用や、アドバンストプレイスメントの実施において夏期集中講座に切り替えるなど、高校生がより参加しやすい運営に切り替えた点は素晴らしい」など、概ね高い評価を受けた。

・「これからの教育は一方的な教科書だけの授業ではなく、PBL など双方向授業を実践していく必要がある」、「大学や企業等、横の広がりを展開するなど知の結集をしていかななくてはいけない」、「英語キャンプ、日英中トライリンガルキャンプ、英語プレゼンテーションコンテストなどの興味深い取り組みに関連高校教員の見学を取り入れてみてはどうか」「アドバンストプレイスメントに関する単位互換協定を今後もより多くの大学の参加・拡充に向けてコアとなることを期待する」などといった意見を受け、指摘された課題について今後検討していく良い機会となった。

## IV. 事業実績の具体的内容

### 〈運 営〉

#### IV－1. 事業体制の継続

##### ＝ 1. 学内基盤の継続

###### 杏林 AP 推進委員会の設置

平成 26 年度から継続して、本学に高大接続事業を推進するため、「大学教育再生加速プログラム（AP）推進委員会（通称「杏林 AP 推進委員会」）を設置している。この委員会は学長を委員長とし、以下各学部長、高大接続推進室長、国際交流センター長、学園事務局長らの教職員で構成され、事業活動の遂行状況の把握、事業計画・活動の点検評価、その他高大接続事業に関する業務を司っている。

###### 高大接続推進室と高大接続推進委員会の設置

平成 26 年度から継続して、高等学校・教育団体等との効果的な高大接続のための調査・企画・連携を推進することにより、高等学校と杏林大学の教育内容、教育方法、学習成果、入学選抜、単位認定等の接続・連携を行うことを目的として高大接続推進室を設置し、その中に高大接続推進委員会を組織した。この委員会は室長を委員長とし、各学部からの教育職員と大学事務部長らの事務職員で組織され、推進室運営に関わる基本的事項の審議および各学部間の調整を図っており、事務局を地域交流課（高大接続推進担当）に開設している。

##### ＝ 2. 委員会と組織との連携

###### AP 推進委員会、高大接続推進室、ライティングセンターとの連動を継続

平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月、AP 推進委員会、高大接続推進委員会、高大接続推進室、ライティングセンターとの連動を継続し、2 委員会と 2 組織の情報共有の促進、協力体制の強化、プログラムの調整をより綿密に行ったことに加え、キャンパス移転を通じて 4 学部のスムーズな連携が可能になったことで、AP 補助事業の全学的な波及に結びついた。

その成果として、本補助事業で定期的に行っている事業項目以外にも、外国語学部教員による順天高等学校での講演、医学部細胞生理学教室教員による聖徳学園高等学校の生徒の指導、保健学部看護学科学校看護学研究室教員による聖徳学園高等学校での「心の健康づくり」をテーマにした健康教育、さらに、「大学教養レベル・グローバル関連科目の夏期集中講座」における総合政策学部教員の担当科目の開講など、他学部教員と高校との連携機会の拡大にも結びついた。

## Ⅳ－2.「杏林 AP ラウンドテーブル」の開催

開 催 日：第 14 回杏林 AP ラウンドテーブル▶第 6 回高校と大学をつなぐ FD/SD  
 （同時開催）令和元年 5 月 20 日  
 第 15 回杏林 AP ラウンドテーブル 令和元年 11 月 18 日

### 目 的

「杏林 AP ラウンドテーブル」は、連携高校関係者と杏林大学が高等学校から大学までの人材育成について意見交換をする場として、本事業の中核的会議として位置づけられる。これまで高等学校と大学との関係は入学試験のみが接点となる場合がほとんどであったが、今後社会で求められるグローバルな視野と行動力、語学力をもつ人材を育成するため、「杏林 AP ラウンドテーブル」を通じて、教育活動や課外活動、そして教育・学習評価方法等について高等学校側と大学が意見を交換し、お互いのリソースを活用するためのプログラム内容について協議することを目的としている。

### 内容・実績

#### 第 14 回「杏林 AP ラウンドテーブル」

開 催 日：令和元年 5 月 20 日（月）18：00～

参加高校：大成高等学校、関東国際高等学校、聖徳学園高等学校、順天高等学校、都立三鷹中等教育学校、都立青梅総合高等学校、日出学園高等学校、都立羽村高等学校、藤村女子高等学校、都立府中東高等学校、都立調布南高等学校、都立杉並総合高等学校、神奈川県立横浜清陵高等学校、工学院大学附属高等学校、都立東大和高等学校（計 15 校）

開催場所：杏林大学井の頭キャンパス 5 階会議室

令和元年 5 月 20 日、第 14 回「杏林 AP ラウンドテーブル」と第 6 回高校と大学をつなぐ FD/SD が、杏林大学井の頭キャンパスで開催された。第 14 回目となる本会議には計 15 校から 23 名の校長、副校長、進路指導部担当教諭らが出席し、活発な意見交換を行った。

#### 1. 報告事項

新年度の初回ということもあり、初めて参加する高等学校の先生方に自己紹介をお願いした後、大瀧

純一学長の開会の挨拶で始まった。今回は高等学校の先生方との FD/SD 研修会が同時開催となるので、多くの情報を持ち帰っていただき、今後も皆さまと共にこの事業を進めていきたいと述べた。

稲垣大輔高大接続推進室長から今年度予定されるライティングセミナー、英語キャンプと中国語研修、夏期集中アドバンストプレイズメントなどの案内がされた。

## 2. 意見交換

最後に質疑応答の時間が設けられ、活発な討論が繰り広げられた。その後ポール・スノードン国際交

流センター長による締めの挨拶で閉会となった。

### 第15回「杏林 AP ラウンドテーブル」

開催日：令和元年11月18日（月）18：00～

参加高校：順天高等学校、関東国際高等学校、聖徳学園高等学校、  
都立青梅総合高等学校、大成高等学校、都立武蔵村山高等学校、  
日出学園高等学校、都立調布南高等学校、都立東大和高等学校、  
都立羽村高等学校、都立杉並総合高等学校、工学院大学附属高等学校、  
神奈川県立神奈川総合高等学校、神奈川県立横浜青陵高等学校、  
都立昭和高等学校、神奈川県立相模原高等学校（計16校）

開催場所：杏林大学井の頭キャンパス5階会議室

令和元年11月18日、第15回杏林 AP ラウンドテーブルが杏林大学井の頭キャンパスで開催された。第15回目となる本会議には計16校から23名の校長、副校長、進路指導部担当教諭らが出席し、活発な意見交換を行った。

### 1. 報告事項

本会議に参加している幾つかの高等学校の生徒も参加して、10月に開催された中国語カラオケ大会、中国語の詩の朗読大会、英語プレゼンテーション大会の模様（録画）を上映し、その後、大瀧学長の挨拶で開会となった。

続いて、稲垣大輔高大接続推進室長から、今年度の英語キャンプ、中国語研修、アドバンストブレインズメント（夏期集中科目等）、ライティングセミナーなどの活動についての報告を行った。さらに、春休みに実施予定の日英中トライリンガルキャンプのお知らせや、高校側から本学宛に積極的な出張講義の要請等をぜひ出してほしい旨説明があった。

## 2. 意見交換

意見交換に入り、今年度から高校教育で新科目と

なった「探究」に関する話題が提供され、各高校側の状況を報告していただくとともに、本学の AP 事業終了後の継続すべき取り組みなどについて意見を伺った。

高校側からは、「大学が中心となり高校関係者と一同に会して情報交換する場を持つことは他にない取り組みなのでぜひ継続して欲しい、最近増加傾向にある中国からの入学者に課題もあるので、中国語・英語のことで力添えをいただきたい、大学教員に高等学校へ出向いていただいて講義をしてもらう機会は非常にありがたい」などの発言があった。

本学保健学部長、総合政策学部長からは「探究」に関して、「高校までの探究で重要なことはリサーチすることであり、大学ではリサーチマインドを高め、多方向から見る目や解決力を養い真理を導き出すことを学んでほしい」という意見が述べられた。

最後にポール・スノードン国際交流センター長が、例をあげ、「鳩（グレーと白）の英語表現は2つあり、このことを調べるのが探究ではないか」と、議論中の話題を会の終了挨拶に変え、杏林 AP ラウンドテーブルは閉会した。

## 効果・成果

第14回杏林 AP ラウンドテーブルにおいては、今年度予定されているライティングセミナー、英語キャンプと中国語研修、夏期集中アドバンストプレイスメントなどの案内を行った後、第6回高校と大学をつなぐFD/SDを開催した。順天中学校・高等学校 長塚篤夫校長に「高等学校からの主体性評価への期待～ePFと電子調査書の課題～」と題して講演いただき、文部科学省「高大接続システム改革会議」の委員を務めておられた経験を基に、学力の3要素における主体性評価、大学入試における主体性評価、資質・能力としての主体性評価、さらにe-ポートフォリオと電子調査書の課題について詳細な説明を受けた後、活発な質疑応答が行われた。さらに、「主体性評価の観点から杏林大学の入試でルーブリックを用いているのは非常に良い。受験する生徒に対し学びの資質を引き出していくことにつながっているので、将来的に他大学も進めてほしい」との高評価を得た。

第15回杏林 AP ラウンドテーブルにおいては、10月に開催された中国語カラオケ・朗読大会、英語プレゼンテーション大会の模様（録画）を高校関係者に見ていただいた後、今年度の英語キャンプ、中国語研修、アドバンストプレイスメント（夏期集中科目等）、ライティングセミナーなどの活動について報告を行った。その後、意見交換に入り、今年度から高校教育で新科目となった「探究」に関する話題が提供され、各高校側の状況報告とともに、入試改革と共に変容しつつある大学入学生に対応する大学教育を考える機会となった。また、本学のAP事業終了後の継続すべき取り組みなどについて意見聴取した。高校側から「大学が中心となり高校関係者と一緒に会して情報交換する場を持つことは他にない取り組みなのでぜひ継続して欲しい」「最近増加傾向にある中国からの入学者に課題もあるので、中国語・英語のことで力添えをいただきたい」「大学教員に高等学校へ出向いていただいて講義をしてもらう機会は非常にありがたい」などの意見をいただき、次年度以降の補助事業終了後の事業継続に参考となる意見交換の場となった。



## Ⅳ－ 3. 高校と大学をつなぐ FD/SD の開催

開 催 日：令和元年 5 月 20 日

講 演 者：順天中学校・高等学校 長塚篤夫校長

テ ー マ：「高等学校からの主体性評価への期待～ ePF と電子調査書の課題～」

開催場所：杏林大学井の頭キャンパス

### 目 的

FD/SD は大学の教育と運営に関し、今や必須のものとなっている。大学教職員が高校教育の現状に理解を深め、特に高校でのグローバル化に対応する教育や外部連携について高校側の取り組みを知ることで、杏林大学における「日英中トライリンガル育成のための高大接続」事業の推進の一助にする。

### 内容・実績

高等学校教育を通じて身に付けさせる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）の中で客観的に評価しにくいものを高校生が取り組む様々な活動を通して、主体性などの評価をすれば良いのではないかと議論が進んだ。

さらに学力 3 要素に結び付ける高大接続改革の要素として、文部科学省高等教育局（大学側）により多様性・協働性の括りが追加されて主体性評価の位置づけが変化してきた。それが基になる新学習指導要領ができ、高校側は戸惑っているのが現状である。次に大学入試における主体性の評価は、調査書の改善も毎年議論されているが、生徒自身が主体性をもって記載する活動報告書の方が重要である。入試制度の総合型選抜は生徒の主体性も見する方法になっており、主体性等の選抜における重みをつけるのであれば大学側もアドミッションオフィスなどの体制を整え充実させる必要があるだろう。また、新学習指導要領では学力 3 要素に対応した資質・能力の育成と評価充実が図られることになった。特に高校では探究の進め方（学びを進める）、引き出そうとする探究学習が充実し、主体的な学びが進められることとなった。大学側でその部分を評価してくれないと生徒が主体的に学ぼうとしている点が見えないだろうと考えている。資質・能力としての主体性を評価するには、パフォーマンス、ポートフォリオなどについてはルーブリック基準で評価することが不可欠である。主体性評価を推進する上では、Web 出願や e-ポートフォリオ、調査書の電子化をするのがよいとの意見が出ている。調査書の電子化は私立大学附属校からモデル的に実験して現在の高校 2 年生あたりから運用したい意向である。ポートフォリオに使われているコーディングの機能を調査書にも応用して 3 年後には運用したい。杏林大学の入試でルーブリックを示しているのは非常に良い。受験する生徒に対し学びの資質を引き出していくことにつながっているのも、将来的に他大学も進めてほしい、と締めくくられた。

### 効果・成果

入試改革での選抜制度の変更は、大学から高校へのメッセージであり、学力の 3 要素を測る方法、英語 4 技能（民間試験）の導入、基礎学力テストと大学入学共通テストの利用方法、調査書変更や e-Portfolio 導入による高校教員の負担などなど、数々の具体的論点について解説が行われた。また学生の変容からみれば、M. トロウのエリート型学生、マス型学生、ユニバーサル型学生の 3 分類は、学生像の変化を言い当てており、それに対応して、国立大・高選抜性私大、中選抜性私大、低選抜性私大のそれぞれにおいて、基礎学力テストや大学入学共通テストの利用方法と科目数などを各大学が決めてゆくことになる」と説明があった。そして、CEFR に基づく英語 4 技能試験は到達度を見る試験となり選抜には使えず、実質的には 4 教科による選抜と英語 4 技能の到達度で評価することになると指摘。その他学力の 3 要素を評価するために、学力担保型の AO 入試が中堅大学では求められていくとの説明があり、今後の本学の入試改革に対して全学の教員が考える貴重な機会となった。



#### IV－4. 連携高等学校との意見交換

令和元年度も連携高等学校と多くの意見交換がなされ、全体で55件あまりとなった。その一部を取り上げ紹介する。

##### ○前期（春学期）ブリッジ授業について

対 応 日：平成31年4月9日

高 校 名：関東国際高等学校

高校関係者：黒澤真爾副校長

大学関係者：青柳貴徳副部長、晝間大郎課次長

主 な 話 題：前期（春学期）外国語学部と保健学部特別聴講科目開放について

##### ○杏林 AP ラウンドテーブル開催に伴う FD/SD テーマ設定について

対 応 日：平成31年4月12日

高 校 名：順天高等学校

高校関係者：長塚篤夫校長、中原晴彦国際部長

大学関係者：青柳貴徳副部長、晝間大郎課次長

主 な 話 題：高校と大学を結ぶ FD/SD 講演依頼等について

##### ○第1回学校運営連絡協議会に出席

対 応 日：令和元年5月14日

高 校 名：東京都立調布南高等学校

高校関係者：小宮徳健校長ほか

大学関係者：ポール・スノードン国際交流センター長

主 な 話 題：高校の英語教育の変更等について

○ 進路ガイダンスに出席

対 応 日：令和元年 6 月 18 日

高 校 名：大成高等学校

高校関係者：飯塚武文進路指導主任、国仲真司教諭

大学関係者：青柳貴徳副部長、小川 裕課長補佐

主 な 話 題：令和 2 年度入試等について

○ 英語キャンプ、夏期集中アドバンストプレイスメント等生徒募集について

対 応 日：令和元年 6 月 20 日

高 校 名：聖徳学園高等学校

高校関係者：大岡文夫進路指導部長

大学関係者：青柳貴徳副部長

主 な 話 題：英語キャンプ、夏期集中アドバンストプレイスメント等募集案内

○ 第 1 回学校運営連絡協議会に出席

対 応 日：令和元年 6 月 20 日

高 校 名：東京都立羽村高等学校

高校関係者：井戸康文校長ほか

大学関係者：ポール・スノードン国際交流センター長

主 な 話 題：オープンキャンパスへの積極的参加推奨等について

○ 英語プレゼンテーション大会にインターンシップ生を引率し参加

対 応 日：令和元年 6 月 25 日

高 校 名：東京都立青梅総合高等学校

高校関係者：田村優加子主任教諭ほか

大学関係者：テキサス A & M 大学インターンシップ生 23 名、青柳貴徳副部長

主 な 話 題：本英語プレゼン大会に関する意見交換

○ 学園祭時の英語プレゼン大会生徒募集について

対 応 日：令和元年 7 月 18 日

高 校 名：神奈川県立大和西高等学校

高校関係者：菅原喜一教諭

大学関係者：青柳貴徳副部長

主 な 話 題：秋期英語プレゼン大会募集案内等について

○ 次年度インターンシップについて

対 応 日：令和元年 11 月 21 日

高 校 名：昭和鉄道高等学校

高校関係者：谷輪保賢教諭

大学関係者：青柳貴徳副部長

主 な 話 題：次年度インターンシップ日程調整について

○ 課題研究発表会に出席

対 応 日：令和元年 12 月 24 日

高 校 名：東京都立杉並総合高等学校

高校関係者：倉本武雄校長ほか

大学関係者：稲垣大輔高大接続推進室長

主 な 話 題：高大接続の今後の方向性等について

## Submitted March 2020



## Kyorin Writing Center Activities

The objectives of the KWC were achieved by the following actions and activities which were accomplished during the 2019 – 2020 academic year.

### Tutoring

Tutoring in the KWC was carried out on a one-to-one basis during the spring and autumn semesters. Sometimes groups of students were tutored together when they had a group presentation. Tutoring was carried out mainly by the PT with Mr. Somerville in a supervisory role. Usually students would make an appointment in advance. However, walk-ins were accepted when possible.

### Peer Tutors

During the spring and fall semesters twelve PT from Japan and China worked in the KWC. After initial training PT were allowed to work with customers (students) usually tutoring. PT also helped prepare the KWC for open campus and writing seminars and also assisted in workshops. In addition to tutoring PT were asked to make posters and flyers and also conduct special drop-ins for IELTS writing practice.

### Open Campus

The KWC was open for business for each of six open campus days and was staffed by at least two PT and Mr. Somerville. Three activities were created to allow high school students to experience university life at Kyorin. The three activities ranged in difficulty and were Postcard Writing, Report Writing, and Entrance Exam Writing. Students were encouraged and supported by the PT and given one-to-one help and feedback. Students (and also parents) dropped in at various times throughout the day with each session usually lasting around 15 minutes. However, some students stayed for over an hour. In total the KWC served 75 students over the four days of Open Campus.

### Outreach Activities

During the academic year two Global AP Writing Seminars were held in the KWC on Saturday afternoon. The purpose was to give participating high school students a taste of university life and also a chance to work on activities not taught at high school level.

The spring Writing Seminar on EIKEN Writing Pre-2 took place on Saturday, June 8th, 2019. Four students participated in learning how to succeed in the EIKEN Writing test. Two KWC Peer Tutors attended the seminar and assisted the Director (Jason Somerville). The students were welcomed and then introduced to the elements of EIKEN Writing Pre-2. After that the students went on to learn about proper writing structure using an introduction, body and conclusion. The students were all given help and feedback with corrections and comments delivered by Mr. Somerville assisted by the PT. The BigPad was utilized in the seminar and was a helpful tool. By the end of the seminar, the students had a firm grasp of how to write more academically and could gain confidence for passing the writing section of the EIKEN Pre-2

The second writing seminar in November was cancelled due to a lack of student participation.

Mr. Somerville visited an affiliated partner school for part of the Global AP Seminar. This was a great chance to take the services of the KWC to our partner high schools for the promotion of English and intercultural communication. The workshop (Mobile-assisted Language Learning - Smartphones to encourage greater student interaction) was taught and enjoyed by students as well as teachers. 13 students and 3 teachers attended the Global AP Seminar.

## Statistics

The following tables summarize data for the academic year 2019 - 2020.

### Kyorin Writing Center

Number of individual tutoring sessions (cumulative number of students)

|             |     |
|-------------|-----|
| Spring term | 84  |
| Autumn term | 102 |
| Total       | 186 |

Number of students served

|             |     |
|-------------|-----|
| Spring term | 62  |
| Autumn term | 77  |
| Total       | 139 |

Number of visits per student and teacher

|             | 1 visit | 2-3 visits | 4 or more visits |
|-------------|---------|------------|------------------|
| Spring term | 47      | 14         | 1                |
| Autumn term | 55      | 21         | 1                |

Faculty from which students and teachers came to the KWC (session numbers)

|             | Foreign Studies | Social Science | Health Science | Medical |
|-------------|-----------------|----------------|----------------|---------|
| Spring term | 70              | 2              | 5              | 0       |
| Autumn term | 63              | 1              | 33             | 0       |

|             | Adult Learning | Staff |
|-------------|----------------|-------|
| Spring term | 4              | 3     |
| Autumn term | 4              | 1     |

Students and teachers who visited the KWC, by year (session numbers)

|             | 1 <sup>st</sup> | 2 <sup>nd</sup> | 3 <sup>rd</sup> | 4 <sup>th</sup> | Graduate<br>Adult Learners | Staff |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------------------|-------|
| Spring term | 29              | 38              | 7               | 3               | 4                          | 3     |
| Autumn term | 3               | 82              | 10              | 1               | 2                          | 4     |

Note: Writing seminar high school students are not included in the data above.

## Outreach Activity - Kyorin University Students

Writing Seminar (class visits)

Total: 61 Kyorin University students

Practical English II: 35 students (1/16/2020)

Practical English IV: 26 students (1/16/2020)

## Outreach Activity - High School Students

Global AP Seminar (high school visit)

Open campus (in KWC)

Junten: 16 students and teachers (10/30/2019)

75 students

Global AP Writing Seminar (in KWC)

Total: 95 high school students

Writing Seminar: 4 students (6/8/2019)

## Kyorin Writing Center Outcomes

As no official data from research was carried out, it is difficult to determine the extent to which the tutoring that the students received in the KWC during the academic year 2019 - 2020 improved student performance. However, from talking with students and teachers, the staff of the KWC (Mr. Somerville and PT) believes and surmises that students (and staff) have greatly benefitted from the KWC services, and hence the objectives of the KWC have been met.

### Students

Students who visited the KWC received personalized, individual help from specially trained PT. The PT assisted the students in writing better, more focused, more structured essays. Some student brought in a paragraph or a presentation script, others brought in a five paragraph essay, but they all received ideas and advice on how to make their writing more academic and suitable for university standard. Students who entered under confident and lacking in written accuracy left with a sense of accomplishment and belief that they could improve their writing. It is believed that students felt

happier and more positive about learning English after visiting the KWC. After talking with teachers whose students received help and support from the KWC, teachers commented on how students' performance in homework, presentation (content) and grades improved. Several students were also asked if their visit to the KWC made a difference and they replied positively.

### Staff

Not only students, but also staff members used the services of the KWC, from professors who needed help writing an academic paper to administration staff who needed help with emails and presentations. The feedback given was very positive.

### Peer Tutors

After initial training for the new PT, an academic writing workshop really got the PT up to speed quickly, and gave them the confidence to be effective PT. Throughout the year PT have not only continued to learn and improve their academic writing, but improve their personal and social skills. Their 'customer service' has been honed over the year and they are now able to offer

the benefits of improved English skill as well as assisting and satisfying students' needs. This was also evident in the PT helping high school students and putting them at ease. The PT helped to bridge the gap between the teacher (Mr. Somerville) and the high school students and showed them how get the best out of their university experience. Some PT started in the KWC a little shy and overwhelmed, but have now transformed into confident and educated young adults whose performance in essays and assignments has vastly improved. During the year all PT have completed on-the-job training from an academic writing textbook and a common English errors textbook. The intercultural benefits between the Japanese,

Indonesian, and Chinese students really blossomed with many new friendships forged. Exchanging ideas and talking about customs was a joy to witness. It is Mr. Somerville's belief that the PT have greatly benefitted from their time in the KWC.

### Affiliated Partners

The connections between Kyorin University and our partner high schools has continued to strengthen, which is evident from the feedback given about the services of the KWC at the AP Round Table meeting over the three years that Mr. Somerville has been the Director.

## Conclusion

Further development of activities of the KWC is continuing and plans are already continuing to get the best out of the resources available. It is hoped that the KWC will advance and go from strength to strength.

The continued cooperation between all Kyorin staff to promote the services of the KWC is important for increasing student numbers. Support from all faculties is essential to the goals of the KWC. By encouraging students teachers can have a positive effect on the way the KWC functions.

It is hoped that after the conclusion of the AP program, Kyorin University will maintain a strong and successful relationship amongst its partners in advancing students' English skill.

The ongoing success of the KWC is an important aspect of Kyorin University's overall mission for the future. With sufficient backing the objectives of the KWC will progress and endure, and university students, high school students, and Kyorin staff will reap the benefits of this valuable resource.



## IV-6. アドバンスト・プレイスメントの実施と生徒募集

平成 29 年度までに締結した大成高等学校、順天高等学校（SGH 指定校）、神奈川総合高等学校、関東国際高等学校、聖徳学園高等学校、武蔵村山高等学校、調布南高等学校、府中東高等学校、藤村女子高等学校の 9 高校と「アドバンスト・プレイスメントに関する覚書」を継続維持し、学則・規定等を整え、本年度は医学部 2 科目、保健学部 5 科目、総合政策学部 16 科目、外国語学部 35 科目の春学期・秋学期合計 58 科目を対象科目としてアドバンスト・プレイスメントを継続実施した。

### 目的

大学入学前に様々な学問分野での大学教養レベルの教育を受ける機会を設けることにより、高校生にとって自分の進路を決めるきっかけを作るのみならず、

大学進学後に修得すべき単位を先取りすることにより、大学での学修をより深く実質的なものにするねらいがある。

### 内容・実績

本年度は 103 名の高校生が履修し、123 単位がアドバンスト・プレイスメントとして認定された。

ここで履修した高校生は、平常点や授業での参加態度や試験を基礎として評価が付き、杏林大学に入学した場合には大学の正式な単位として認定される。

また、本学入学志望の高校生だけを対象にせず、制度本来の意義を踏まえ、修得した単位がより多くの大学で単位認定される高校生にとってより有益な制度構築を図っている。

(2019 年度 実績)

|                            | 認定科目名                                 | 実施日程        | 単位数  | 履修<br>登録者 | 認定<br>単位数 |
|----------------------------|---------------------------------------|-------------|------|-----------|-----------|
| 春学期<br>開講科目                | 現代日本政治 A                              | 4/8 ～ 7/22  | 2 単位 | 1         | 2         |
| 英語キャンプ                     | 口語英語Ⅲ<br>(英語キャンプ)                     | 8/5 ～ 8/6   | 1 単位 | 8         | 7         |
| 中国語研修                      | 口語中国語Ⅰ<br>(中国語研修)                     | 8/5 ～ 8/6   | 1 単位 | 0         | 0         |
| 夏期集中<br>アドバンスト・<br>プレイスメント | 科目 A<br>プロジェクト演習Ⅰ or Ⅱ<br>(近現代史と現代社会) | 8/19 ～ 8/22 | 2 単位 | 6         | 12        |
|                            | 科目 B 基礎生物学                            | 8/19 ～ 8/21 | 1 単位 | 29        | 29        |
|                            | 科目 C 基礎化学                             | 8/19 ～ 8/21 | 1 単位 | 10        | 9         |
|                            | 科目 D 基礎物理学                            | 8/19 ～ 8/21 | 1 単位 | 2         | 2         |
|                            | 科目 E 基礎数学                             | 8/19 ～ 8/21 | 1 単位 | 27        | 26        |
|                            | 科目 F 目的別英語演習Ⅰ                         | 8/19 ～ 8/22 | 2 単位 | 20        | 36        |
| 合計                         |                                       |             |      | 103       | 123       |

## 効果

大学レベルの授業を受けた高校生の感想は大半の生徒が、「内容は大体理解できた」「高校の授業と比べてより興味深く学べた」「大学の講義と高校の授業には大きな違いがあると感じた」「これを機会に大学進学への意欲が一段と強くなった」などと回答し、前向きな学習意欲に応えることができたようである。

### 高校生対象 夏期集中 アドバンスト・プレイスメント科目の開講

夏期集中科目としての開講も本年度も継続し、保健学部4科目（基礎生物学・基礎化学・基礎物理学・基礎数学）、総合政策学部1科目（近現代史と現代社会）、外国語学部1科目（目的別英語演習）を開講した。

本年度は103名の高校生が履修し、123単位がアドバンスト・プレイスメントとして認定された。ここで履修した高校生は、平常点や授業での参加態度や試験を基礎として評価が付き、杏林大学に入学した場合には大学の正式な単位として認定される。

また、本学入学志望の高校生だけを対象にせず、制度本来の意義を踏まえ、修得した単位がより多く

の大学で単位認定される高校生にとってより有益な制度構築を図っている。

大学レベルの授業を受けた高校生の感想は「高校では教えてもらえない深いところまで教えてもらった（生物学）」、「習っていない範囲も理解できてうれしい（数学）」「高校の授業との違いを知ることができて、より大学に進学したいと思った（生物学・数学）」「正直に、『わからないです』といったら詳しく説明してもらえた（物理学）」などと、前向きな学習意欲に応えることができた。

桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の3大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」を締結し、本学入学志望の高校生だけを対象にせず、制度本来の意義を踏まえ、修得した単位がより多くの大学で単位認定される高校生にとってより有益な制度構築を図り、本年度は複数の大学に働きかけを行っているが、先方の大学から正式な協定締結の回答を待っている状況である。

アドバンスト・プレイスメントで単位認定を受けた高校生は、これまでの累積で合計207人、認定された単位数は231単位となり、目標値50人、100単位を大きく上回る結果となった。



## Ⅳ－ 7. 大学教養レベル「グローバル関連科目」高校生への開放

### 目的

「大学教養レベル・グローバル関連科目の夏季集中講座」は高校生と大学生が共に学ぶことを目的とし、平成28年度より開始した。令和元年は、8月26日から30日にかけて科目A・科目B・科目Cの3講座を開講した。

### 内容・実績

大学教養レベル・グローバル関連科目の夏季集中講座の内容と参加者数は以下の通り。

| 科目名（全て1単位）                            | 日 程       | 高校生 | 在学生 |
|---------------------------------------|-----------|-----|-----|
| 科目A 口語中国語Ⅱ<br>（杏林ガイゴ・ライブラリー 中国語系）     | 8/26～8/27 | 4   | 0   |
| 科目B 口語中国語Ⅳ<br>（杏林ガイゴ・ライブラリー 英語系）      | 8/26～8/27 | 6   | 3   |
| 科目C プロジェクト演習<br>（英語と日本語で学ぶ「社会のしくみ」入門） | 8/29～8/30 | 5   | 17  |
| 合計                                    |           | 15  | 20  |

本年度は15名の高校生と20名の大学生が履修し、合計33単位が認定された。（2名欠席）

ここで履修した高校生は、授業への出席状況やレポート課題提出等を条件に評価が付き、杏林大学に入学した場合には、大学の正式な単位として認定される。

また、本学入学志望の高校生だけを対象にせず、制度本来の意義を踏まえ、修得した単位がより多くの大学で単位認定される高校生にとってより有益な制度構築を図っている。

履修した大学生（総合政策学部、外国語学部）も同様に、授業への出席状況やレポート課題提出等を条件に評価が付き、学内で単位が認定される。

### 効果・成果

高校生と大学生が協働学習、アクティブラーニングに取り組んだ。

高校生にとっては、桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の3大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」を締結したことにより、本学入学志望の高校生だけでなく、アドバンスト・プレイスメントによって修得した単位がより多くの大学で単位認定される、高校生にとってより有益な制度となった。



## Ⅳ－ 8. グローバル関連科目・COC 関連科目の高校生への開放

関東国際高等学校の生徒 11 名が保健学部の正規授業科目を特別聴講

令和元年 6 月 6 日（木）、関東国際高等学校の生徒 11 名（他に引率教員 1 名）が、保健学部臨床心理学科 4 限の授業（学習・言語心理学；下島 裕美教授 担当）を、ブリッジ授業として特別聴講した。これは、正規授業科目のオープン化の一環として実施されたもので、生徒たちは F 棟 4 階の中教室で、大学生に混ざって講義を受けた。なお、同校の生徒が保健学部の授業を特別聴講するのは今回が初めてとなる。

講義終了前には下島教授から課題も出され、生徒たちはその課題を持ち帰り、各自研鑽を加え次週の授業に備えることになった。

関東国際高等学校の生徒 10 名が外国語学部の正規授業科目を特別聴講

令和元年 6 月 21 日（金）、関東国際高等学校の生徒 10 名（他に引率教員 1 名）が、外国語学部観光交流文化学科 5 限の授業（ホスピタリティ入門；志村 良浩教授 担当）を、ブリッジ授業として特別聴講した。これは、正規授業科目のオープン化の一環として実施されたもので、生徒たちは井の頭キャンパス A 棟 1 階の教室で、大学生に混ざって講義を受けた。なお、同校の生徒が外国語学部の授業を特別聴講するのは 4 期連続となる。

当日は、JAL の外部講師から、「航空会社におけるホスピタリティ経営」について講義を受けた。次週は引き続き、「テーマパークにおけるホスピタリティ経営」の講義を受講した。

関東国際高等学校の生徒 35 名が外国語学部と保健学部の授業を特別聴講

令和元年 12 月 10 日（火）、関東国際高等学校の生徒 25 名（他に引率教員 1 名）が、外国語学部観光交流文化学科 4 限の授業（観光学入門；古本泰之准教授 担当）を、プレブリッジ授業として特別聴講した。これは、正規授業科目のオープン化の一環として実施されたもので、生徒たちは井の頭キャンパス F 棟 3 階の大教室で、大学生に混ざって講義を受けた。なお、同校の生徒が外国語学部の授業を特別聴講するのは春学期に続いて 5 期連続となる。

翌 12 月 11 日（水）には、保健学部理学療法学科石井博之教授の特別講義「保健学部理学療法学科での学びについて」を関東国際高等学校の生徒 10 名（他に引率教員 1 名）が聴講（保健学部の科目の特別聴講は、今春に続いて 2 期連続）した。石井教授は、杏林大学と保健学部の他学科の概要についても触れたうえで、理学療法学科でどのようなことを学ぶのかについてわかり易く説明していた。

高校生たちは、いずれの授業も真摯な態度で臨み、大学の講義に刺激を受けている様子であった。



## IV－ 9. 英語キャンプの実施

令和元年 8 月 5 日、6 日の 2 日間に渡り、杏林大学井の頭キャンパスにおいて「英語キャンプ」が開催され、杏林大学の学生 36 名（外国語学部・総合政策学部）と高校生 8 名が参加した。当日は 3 人のネイティブの非常勤講師が指導に当たった。以下はエリック非常勤講師のレポートである。

The Kyorin Summer English Camp was another success. A group of hard working students joined us on the 5th and 6th of August to improve their English skills and have fun. There was a wide range of English skill within the group, but everyone worked well with each other, willing to help each other whenever they could. We began with an activity of creating postcards which were used to help people introduce themselves to one another and practice asking questions to get more information from their partners. That was followed by a scavenger hunt around the campus. Some of the clues were quite challenging, but one group was awesome and collected all fourteen items to claim first prize. Dinner was followed by a short

movie. Discussion and speculation focused on the main character's problems, and what the students would do in such a situation. For the main event, there was the creation of a fake news presentation. This activity gave small groups time to use their imagination, brainstorming techniques, and communication skills to develop news stories. Work was done both individually and as a group. Colorful posters were designed, and the presentations were given on the second day. The presentations were well crafted, full of detail and fun to listen to. Everyone seemed to have a good time. Why don't you join us for the next Summer Camp?

Eric Trautman



## Ⅳ－ 10. 中国語研修の実施

令和元年8月5日（月）と8月6日（火）の2日間にわたり杏林大学井の頭キャンパスにて、中国語のステップアップを目指した学内研修を行った。

この研修は本学にて中国語を学んでいる中国語入門を終えた初級レベルの学生を対象としており、今回の研修では中国語学科の学生32名、第二外国語で中国語を学んでいる英語学科・観光交流文化学科の学生10名の計42名が参加した。「日英中トライリンガル育成のための高大接続」事業の一環として高校生の募集も行ったが今回は残念ながら高校生の参加はなかった。

中国語ネイティブ教員の指導の下、午前中は2クラスに分かれて文法の復習や検定試験の対策などそれぞれのレベルに合わせた内容を学んだ。午後には各クラスに中国人留学生が加わり、発音指導や交流を楽しみながら会話練習などを行った後、学生は中国語での映画の一場面を見ながらセリフの書き取りにも挑戦した。



参加した学生からは以下のようなコメントが寄せられ、学生たちにとって中国語漬けの学内研修は有意義な2日間だったことが伺えた。

「この研修で春学期に学んだ中国語が自分に身についていることを実感し、モチベーションになりました」

「中国語の映画を見て、いくつかの単語を聞き取ることができて感動しました。でもまだまだ語彙力を上げないといけないと思いました」

「中国人留学生との交流で、自己紹介や日常的に使う言葉を教えてもらいためにあった」

「午前中の授業で検定試験の問題を解いてみて、11月の検定試験に向けて頑張ろうと思った」

普段とは違う環境の中で内容濃く学ぶことによって、個々の成長がみられたのではないかと感じている。

学生たちにとって中国語漬けの学内研修という普段とは違う環境の中で内容濃く学ぶことは、有意義な2日間であったことが伺えた。



## Ⅳ－ 11. 英語プレゼンテーションコンテストの実施、中国語カラオケ・朗読・吹き替え大会

### 目的

これまで本学在学学生を対象として実施していた「英語プレゼンテーションコンテスト」「中国語カラオケ・朗読・吹き替え大会」に高校生の参加を呼びかけ、目的を共有する者が集う場での集中特訓や能動的学修を通じて、高大の参加者に対し留学に向けた強い意識の醸成を促す。

### 内容・実績

#### 【英語プレゼンテーションコンテスト】

令和元年10月19日（土）午後より、英語プレゼンテーションコンテストが、井の頭キャンパスで行われた。

このコンテストは、毎年杏園祭（学園祭）の中で実施していたが、台風の影響で杏園祭が急遽中止となったため、今回は日程を一週間繰り下げて実施の運びとなった。三つの高校（都立杉並総合高等学校、県立大和西高等学校、県立相模原高等学校）から、高校生の個人3人と杏林大学学生（いずれも中国からの留学生）の個人4人、計7人による英語のプレゼンテーションを行った。高校から引率教員ら4人も聴衆として参加した。

Jason Somerville 特任講師の進行で、審査委員は、稲垣大輔高大接続推進室長（教授）、Eric Trautman 非常勤講師、黄 春美非常勤講師が当たった。プレゼンテーションのテーマは、観光「東京の穴場の観光スポットを紹介する」、教育「映画やドラマを用いた実践的英語教育法」、「世界の面白い教育の実践例（英語教育に限らない）」、東京オリンピック2020「東京オリンピックを開催することの好影響と悪影

響」の3つの中から一つを選んで、一人5分間の持ち時間で、パワーポイントを駆使して自分たちの論点を、英語でアピールした。

審査は以下の項目で採点された。

PRONUNCIATION Pronunciation, Intonation,  
DELIVERY Eye Contact, Energy, Confidence  
ACCURACY & FLUENCY Speed (Smooth & Natural), Transition (from point to point)  
CONTENT Interesting (Details), Clear Organization, Visual Aids (PowerPoint)

その結果、一位は杏林大学の個人（男子留学生）、二位は、県立大和西高等学校の高校生、三位は杏林大学の個人（女子留学生）に決まり、Jason 特任講師から賞状と副賞がそれぞれ手渡された。

今年も昨年に引き続き発表者のレベルが高く、講評として発表後の審査委員との英語での質疑応答も非常によくできていることが評価された。参加者の今後の学修や課外活動での活躍が期待される。

最後に、写真撮影を行い、コンテストの成功と発表者、聴衆、準備関係者の努力を称え合った。



## 【中国語カラオケ・朗読・吹き替え大会】

10月16日（水）3時限目に、外国語学部中国語学科の教員と学生、高大連携協定を締結している関東国際高等学校の生徒2名が参加して、中国語カラオケ・朗読・吹き替え大会を開催した。

今回は台風で10月12日（土）、13日（日）に開催予定だった杏園祭（学園祭）が中止となったため、10月16日の授業時間内に急遽実施された。

高校生と大学1年生は、中国語でカラオケを歌い、漢詩の朗読をして日頃の練習の成果を発表した。



大学3年生はゼミナールごとに分かれて発表をした。詹ゼミナールでは、漢詩の発表を、千野ゼミナールでは、「魔女の宅急便」を中国語でアフレコした。張ゼミナールでは、「ジャイアンシチュー」と「まる子、梅仕事を手伝うの巻」を中国語でアフレコし、同時通訳を中国人留学生が行った。

最後は4年生から、動画のサプライズもあった。

急遽行ったにも関わらず、聴衆も含め約80名近くの方が会場に詰めかけ、充実した中身となった。



## //// 効果・成果 //////////////////////////////////////

大学生と高校生が一堂に会し、日々の学修の成果を競い合うというのは、貴重な機会であるだけに、双方がお互いから刺激を受けることとなった。今回参加された皆さんがこの経験を一つの糧としてさら

に高い目標を達成できるよう邁進してくれることを願いつつ、杏林大学では今後もこのようなイベントを豊富に用意し、高大接続の機会拡大を図っていき

## IV－12. IELTS 対策講座と試験の実施

実施日：令和元年11月16日・30日

場所：杏林大学井の頭キャンパス

### 目的

英語学習に意欲的な高校生に英語検定試験とその対策講座を開放することで、大学での学びに向けた語学力の確認を目的とする。また本講座は、高大接続の観点から IELTS の試験を受検希望する本学在學生と高校生に対し、IELTS を主宰する日本英語検定協会の講座対策プログラムを、民間から派遣された講師が大学の教室で講義を行うプログラムである。

### 内容・実績

令和元年11月16日（土）・30日（土）の午後3時より6時迄、井の頭キャンパスF棟402教室において、本学在學生及び高校生向け IELTS 対策講座が開始された。

この講座は、高大接続の観点から IELTS の試験を受検希望する在學生と高校生に対し、IELTS を主宰する日本英語検定協会の講座対策プログラムを、民間から派遣された講師が大学の教室で講義するというものである。

今回は、杏林大学外国語学部の学生5名、高校生23名、計28名の意欲的な在學生と高校生が参加し、ユーモアたっぷりの二人のネイティブの担当講師の英語の説明に、全員集中して聞き入っていた。

### 効果・成果

対策講座の受講でアカデミックな英語力を向上させ、検定試験受検に至る学習意欲を継続できた。



## Ⅳ－ 13. ルーブリックの入学試験での利用

### 目的

平成 26 年度より開発が始まったルーブリックの目的は、学力の 3 要素のうち、試験でなく課外活動や種々の体験で評価されやすい主体性、協働性、多様性、課題発見・解決力および言語の 4 要素を図るためである。

### 内容・実績

学力の 3 要素のうちの一つ「主体性も持って多様な人々と協働して学ぶ力」と、「課題発見とその解決をする力」および「語学力（話す力（対話力＋プレゼンテーション力）、聞く力、書く力、読む力）」に関してのルーブリックを作成し、平成 30 年度から外国語学部 AO 入試で選抜に使用している。

### 効果・結果

学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力などの試験・テストで測ることができる力とは異なり、主体性・多様性・協働性という様々な経験によって身に着けた能力を評価測定するルーブリックが入学試験の一部として使用されることにより、授業及び高等学校が行事として指定している経験だけでなく、学校が指定していない留学・海外研修、ボランティア、資格・検定試験、コンテストなどの学外での自主的な経験によって習得した能力が多面的に評価され、それらの「生きる力」を伸ばすために大学進学を目指す高校生を選抜する入試が実施された。令和元年度は、9 月 28 日に外国語学部 AO 入試を行い、募集人数 32 名に対し、志願者 44 名、合格者 32 名となった。



**ルーブリックってなに？ ～ルーブリックを理解する～**

ルーブリックとは、皆さんがこれまでの経験の中で身に付けた能力のレベル、学習の到達度を評価するためのものです。

**皆さんは、「学力の3要素」という言葉を聞いたことがありますか？**

**学力の3要素**

- ① 基本的知識・技能
- ② それらを基盤にして考えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力などの能力
- ③ これらの基盤となる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

知識・技能は、マークシート式の試験やテストでも測ることができますが、②の思考力・判断力・表現力は形式で測ることができません。さらに、③の主体性・多様性・協働性は試験やテストでは測ることができません。

皆さん一人一人の個性に合った多様な可能性を伸ばすためには、皆さんの幅広い経験・能力を多面的に評価し、定めていくため、学校内の活動での学習成果だけでなく、一人一人の個性や活動などに応じて各自の持ち味ある学習などについても、学びの成果として評価する必要があります。

各科目の学力（リテラシー）は、各教科の能力として評価（自己評価・評価）し、評価結果は、成績表に、各教科や総合的な学習の時間（探究）の「自己評価（自己評価）」の欄に記載することができるようになっています。

**自己評価の記入方法**

各教科の能力を伸ばすための具体的な経験に照らし、その経験がどれだけのレベルで達成されたかを振り返り、その経験について、具体的な成果や学びの経験の中から2つを選び、それらの経験について記入し、その経験を通して身に付けた能力や、その経験を通して身に付けた能力を評価します。

**自己評価の記入方法**

自己評価については、2段階まで評価することができるようになっています。それぞれの経験は、レベルアップの経験で評価します。経験がどれだけのレベルで達成されたかを振り返り、その経験について、具体的な成果や学びの経験の中から2つを選び、それらの経験を通して身に付けた能力や、その経験を通して身に付けた能力を評価します。

**自己評価の記入方法**

自己評価については、2段階まで評価することができるようになっています。それぞれの経験は、レベルアップの経験で評価します。経験がどれだけのレベルで達成されたかを振り返り、その経験について、具体的な成果や学びの経験の中から2つを選び、それらの経験を通して身に付けた能力や、その経験を通して身に付けた能力を評価します。

## IV－14. 高等学校での講演

日 時：2019年6月6日  
主 催：順天高等学校  
講 評 者：坂本ロビン学部長  
講演テーマ：グローバルに活躍することの素晴らしさ  
参 加 者：高校生の保護者83名、教員10名

日 時：2019年7月8日  
海外大学進学説明会  
主 催：聖徳学園高等学校  
講 評 者：ポール・スノードン国際交流センター長  
内 容：本学のアドバンストプレイスメントについて  
参 加 者：高校生とその保護者約30名

日 時：2019年10月28日  
Global Week  
主 催：順天高等学校  
講 評 者：ポール・スノードン国際交流センター長  
テ ー マ：「The Man Who Made the First English-English  
Study Dictionary」  
参 加 者：高校生10名、教員1名

日 時：2019 年 10 月 30 日  
Global Week  
主 催：順天高等学校  
講 評 者：ジェーソン・サマービル特任講師  
講演テーマ：「Student interaction in English using smartphone  
apps」  
参 加 者：高校生 13 名、教員 3 名

日 時：2019 年 11 月 26 日  
Shotoku Global Day  
主 催：聖徳学園高等学校  
講 評 者：ポール・スノードン国際交流センター長  
テ ー マ：「The Man Who Made the First English-English  
Study Dictionary」  
参 加 者：高校生 33 名

日 時：2019 年 12 月 10 日  
World Café  
主 催：県立神奈川総合高等学校  
講 評 者：ポール・スノードン国際交流センター長  
テ ー マ：the 21st Century  
参 加 者：神奈川県内高校生 155 名

## 〈波及効果〉

連携協定高等学校からの要請や本事業にて開催している「杏林 AP ラウンドテーブル」を通じて、高大接続活動の一環として高等学校へ出張講演や実習など様々な活動を実施している。本事業での活動が全学的な波及効果へと繋がり、高大接続・高大連携による協力も緊密となった。

### Ⅳ－15. 中高生と大学生の高大連携ボランティア活動

主 催：聖徳学園中学・高等学校「いじめ防止プログラム推進」

担当教員：杏林大学保健学部看護学科学学校看護学研究室 亀崎路子教授

内 容：「いじめ防止プログラム推進」の一貫として活動を支援

#### 活動の背景

聖徳学園中学・高等学校では、2015（平成 27）年度に、生徒が文部科学省主催の全国いじめサミットに参加をしたことをきっかけに、2016（平成 28）年度より「いじめ防止プログラム推進」に力を入れてきた。担当スクールカウンセラーの山名和樹先生から依頼があり、杏林大学学生の希望を受けて、いじめ防止の目的とした中高生とのピアグループ活動が始まった。

2017（平成 29）年は、6 月から 3 月までの期間の数日間、ボランティア活動の一環として、聖徳学園中学・高等学校において、いじめ防止を目的としたピアサポーター（中学生）を支援する大学生のピアエデュケーション活動を行った。ピアサポーターの成長する姿は、大学生にとっても生きて働く力となる。

2018（平成 30）年度は、方向を変えて、「いじめ防止」から、子どもたちの「心の健康づくり」を目的とした予防的な活動や、さらには学校や地域の環境をよりよくしていくことを目標に自分たちにできる新たなボランティア活動を立ち上げていこうということとなる。

#### 目 的

本活動は、中高生と大学生が連携して、自分たちの手で学校をよくするために、まずは聖徳学園中学・

高等学校（武蔵野市）の先生方と大学生が連携して「心の健康づくり」を目的とした授業を行い、続いて、大学生の声かけに集まってきた中高生を主体にして、新たなボランティア活動を立ち上げていこうとする共同プロジェクトである。

#### 内容・実績

令和元年度は中高生 4 名、大学生 8 名、教員 2 名のメンバーでスタートした。活動内容は表の通り。

学校を良くするプロジェクトでは、中高生が学校紹介のためのプレゼンテーションを作成した。それに対して、大学生が質問やコメントをして、ブラッシュアップを図った。生徒自身の視点で、生徒たちの言葉で伝える学校紹介は、ユニークで新鮮なものに感じられ、大学生からは笑顔がこぼれた。文化祭当日は聖徳学園に来校された小学生や保護者の前で、堂々と語る姿が見られた。

心の健康教育については、今年度も総合的な学習の時間に中学 1 年生に行うことが出来た。大学生 8 名は指導案や教材を見直し、使う言葉一つ一つをチェックし、コミュニケーションの大切さが伝わるように吟味していた。さらに、授業の練習を何度も行い、チームワークを高めた。実習中の学生もいたが、時間調整をし、仲間同士が補いあい、力を合わせて行うことが出来た。

| プログラム |        | 実施日       | 活動内容                       |
|-------|--------|-----------|----------------------------|
| ①計画   |        | 7月24日     | 大学生ミーティング                  |
|       |        |           | ・新メンバーの顔合わせ                |
|       |        |           | ・中高生と大学生との交流会の企画、役割分担      |
|       |        |           | ・「心の健康づくり」をテーマにした健康教育の企画   |
| ②準備   |        | 8月6日      | 高校生と大学生の合同ミーティング           |
|       |        |           | ・高校生による学校紹介企画のプレゼンテーション    |
|       |        |           | ・質疑応答・助言                   |
|       |        |           | ・杏林大学構内ツアー＆食堂でのランチ会        |
|       |        | 8月～9月     | 「心の健康づくり」をテーマにした健康教育の準備    |
|       |        |           | ・指導案作成                     |
|       |        |           | ・授業準備、練習                   |
| ③実施   | プロジェクト | 9月14日、15日 | ・聖徳学園文化祭への参加と応援            |
|       |        | 9月25日     | ・中学1年2組において授業の実施           |
|       | 心の健康教育 | 9月28日     | ・中学1年1組において授業の実施           |
|       |        | 9月30日     | ・中学1年3組において授業の実施           |
| ④振り返り |        | 10月～12月   | ・心の健康教育のワークシートのフィードバックとまとめ |

## //// 効果・成果 //////////////////////////////////////

生徒自らが聖徳学園を盛り上げていこうという愛着や心意気を感じることが出来た。文化祭を見に来た保護者の方や、聖徳学園の教職員の方々からも好評であった。大学生は応援する側であったが、逆

に、高校生が自ら動く姿を見て刺激を受けたようである。

聖徳学園の校長先生や教頭先生からも肯定的な評価をいただき、この活動は来年度に引き継がれることとなった。



## Ⅳ－ 16. 都立青梅総合高等学校と昭和鉄道高等学校の生徒がインターンシップを体験

日 時：令和元年 7 月 23 日・24 日  
場 所：杏林大学井の頭キャンパス  
担 当：杏林大学キャリアサポートセンター、高大接続推進室、  
入学センター、井の頭図書館、学生支援課  
内 容：「職業・仕事、働くということ」について本学にてインターンシッ  
プを体験  
参 加 者：都立青梅総合高等学校の生徒 1 名、昭和鉄道高等学校の生徒 2 名

### 目 的

都立青梅総合高等学校と昭和鉄道高等学校の要請を受け、高校生への働くことに対する意識付けを目的とし本学にて職業体験を実施した。

### 内 容・実績

7 月 23 日～24 日の 2 日間、都立青梅総合高等学校と昭和鉄道高等学校の生徒（青梅総合 1 名、昭和鉄道 2 名、計 3 名）が、杏林大学井の頭キャンパスでインターンシップを体験した。都立青梅総合高等学校は井の頭キャンパスで今回が 4 回目、昭和鉄道高等学校は、3 回目のインターンシップとなった。

初日の朝、高大接続推進室に来校した生徒たちは、まず地域交流課高大接続推進担当の職員とともにキャリアサポートセンターに向かい、担当課次長から「働くということ」についてのガイダンスを受けた。その後、三人一組で午前中は高大接続推進室とキャリアサポートセンターでの業務を体験した。高大接続推進室では教員への配付物に説明書を挟み込み、メールボックスへ投函する作業、キャリアサポートセンターでは求人等のパソコン入力作業を行った。昼休みに学食初体験

をした後、午後からは地域交流課で入力作業等、図書館で書架の移動等を行い、初日の予定を終了した。

二日目は、始めにキャリアサポートセンターで担当副部長から「大学の仕事について」ガイダンスを受け、入学センター、キャリアサポートセンターでの諸業務を体験した後、午後からは学生支援課で自転車置き場の整理、番号確認作業等を職員の指導を受けながら遂行し、昨日に続いて図書館では本へのカバーコーティングの作業を体験した。

### 効果・成果

予定した作業を全て終了した後、地域交流課高大接続推進担当の職員と 2 日間の振り返りを行った。生徒たちからは、「大学の事務の仕事は、当初自分で思い描いていた以上に多岐にわたることがわかり、それを体験して視野が広がった」、「鉄道以外の業種、特に大学で学生に対するサービスを経験できてとても勉強になった」、「パソコンへの入力作業等が多いことがわかり、今後はもっと努力して早く正確に入力作業ができるようにスキルアップを図っていきたい」などの感想が聞かれた。



## IV－17. 都立三鷹中等教育学校生徒が職場見学と職場体験

日 時：令和元年11月12日（職場見学）・13～15日（職場体験）  
場 所：杏林大学井の頭キャンパス  
受入部署：キャリアサポートセンター、井の頭図書館 ほか  
内 容：職場見学及び「職業・仕事、働くということ」について本学にて  
インターンシップを体験  
参 加 者：都立三鷹中等教育学校生徒（中学1年生）4名、（中学2年生）  
3名

### 目的

都立三鷹中等教育学校より要請を受け、「働くことの大切さを学ぶとともに、自分の進路に関心を持ち、目的意識を高め、望ましい職業観・勤労観を身につけて日常生活の向上に資する」、「地域の大人とふれあうことにより、社会の一員として社会性を身に付ける機会とする」ことを目的とし実施した。

### 内容・実績

都立三鷹中等教育学校からの要望で、1年生（中学校第1学年相当）の職場見学を令和元年11月12日に、2年生（中学校第2学年相当）の職場体験を11月13日から15日の3日間に渡り、平成28年度から4年連続で、今年も杏林大学井の頭キャンパスの事務部門で実施した。

職場見学は4名（男子2名、女子2名）が参加した。オリエンテーションの後、入学センター、高大接続推進室、教務課、学生支援課、地域交流課、キャリアサポートセンター、井の頭図書館、情報センターを

見学し、最後に、1日の振り返りを記入し、大学職員が生徒の予め用意した質問に答えた。

職場体験は3名（全員女子）が参加し、初日のガイダンスの後、キャリアサポートセンター、学生支援課、入学センター、井の頭図書館で、各種作業を体験した。自転車置き場の整理や受験生向け書類の分類整理作業、PC入力や掲示物の貼付、図書館での書架移動やカウンター受付業務、本のカバーコーティング（ブッカー貼り）など、幅広い仕事を体験し、毎日、仕事の最後には振り返りの記入と大学職員との質疑応答を行った。

### 効果・成果

毎日、仕事の最後には振り返りの記入と大学職員との質疑応答で、大学の事務の仕事を通して、「働くこととはどういうことか」について各自が考える良い体験ができたことから、職場見学及び職場体験を通じて中学生は働くことに対して意識を高め、社会性を身につけるといった目的を果たしたといえる。



## Ⅳ－ 18. テキサス A & M 大学のインターンシップ生が都立青梅総合高等学校のプレゼン交流会に参加

日 時：令和元年 6 月 25 日  
場 所：都立青梅総合高等学校  
協 力：杏林大学  
参 加 者：都立青梅総合高等学校の生徒（高校 1 年生）238 名、  
                  テキサス A & M 大学 本学滞在中の短期留学生 23 名

### 目 的

杏林大学側より高校側に提案し、高校生とネイティブの大学生との国際交流を目的として実施した。

### 内 容 ・ 実 績

6 月 25 日（火）、本学に滞在（5/27～8/2）しているテキサス A & M 大学のインターンシップ生 23 名が、都立青梅総合高等学校を訪れ、高校 1 年生 238 名との英語・日本語のプレゼンテーション交流会に参加した。

今回の企画は今年の 3 月頃杏林大学側より高校側に提案され、その後杏林大学が仲介役となり、テキサス A & M 大学の引率責任者（教員）と都立青梅総合高等学校総合学科推進部の担当教員がメールで入念な連絡、調整、準備を行いながら実現したものである。

都立青梅総合高等学校には、「産業社会と人間」という科目が設置されており、今回はその連続した 2 コマを利用してこのプレゼン交流会が開催された。

1 クラスをさらに 2 等分した高校生の小グループに、約 2 名の割合でテキサス A & M 生が割り当てられ、まずそれぞれの代表者が全体プレゼン（高校生は日本語で話した後→英語で話す、大学生は英語で話した後→日本語で話す）を行い、それぞれの高校生活、大学生活等についてプレゼンを行った。終了後、小グループ毎に分かれ、高校生と大学生によるプレゼン交流（高校生は英語での自己紹介→日本

語での自己紹介、大学生は日本語での自己紹介→英語での自己紹介）を行った。

それぞれの自己紹介終了後、残りの時間を全員が英語だけを話す時間、日本語だけを話す時間に分けて交流を行った。

続いて 2 コマ目には、1 コマ目とは違う高校生のグループに大学生が入り、同じようにプログラムを実践した。

最初はみな緊張気味で、少し固い雰囲気だったが、時間が進むにつれどのグループからも笑いが起こるようになり、高校生は大学生に対し予め用意してきた質問を堂々と英語でぶつけ、大学生もそれにユーモアを交えて応えていた。

### 効果・成果

終了後、都立青梅総合高等学校の生徒からは、「産業社会と人間の授業の中で一番楽しい一時が過ごせた」、「最初は緊張していたけれど、話してみると楽しくてあっという間に時間が過ぎてしまった」という感想が聞かれ、テキサス A & M 大学の学生からは、「短い時間だったけれど日本の高校を訪問して高校生とコミュニケーションできたことは貴重な経験となった」「生徒からアメリカ式のゲームを教えてほしいという要望があったので、それを説明した後皆で楽しむことが出来た」などという声が聞かれた。双方にとってとても意義ある交流会となった。



## IV－19. 聖徳学園高等学校の生徒が医学部代謝生化学教室で体験実習

日 時：令和元年 12 月 21 日  
場 所：三鷹キャンパス基礎医学研究棟 2 階実習室  
担当教員：杏林大学医学部代謝生化学教室教員  
（後藤田貴也教授、田原義和講師、山本隆史助教、守暢子実験助手）  
内 容：「LDH(乳酸脱水素酵素)の酵素タンパクの検出と酵素活性の測定」  
参 加 者：聖徳学園高等学校の生徒 4 名、教員 1 名

### 目的

聖徳学園中学・高等学校からの要請を受け、本学医学部と連携し、高校生に対して大学の授業を体験させることで、意識向上や大学における具体的な学びについて考えさせることを目的とし、実習を行った。

### 内容・実績

12 月 21 日（土）午後 2 時から 5 時まで、医学部代謝生化学教室教員による「LDH(乳酸脱水素酵素)の酵素タンパクの検出と酵素活性の測定」と題した体験講義・実習が、三鷹キャンパス基礎医学研究棟 2 階実習室にて実施され、聖徳学園高等学校の生徒 4 名と教員 1 名が参加した。

始めに後藤田教授より、本日の研究対象となる LDH（乳酸脱水素酵素）の生化学的特徴と臨床的重要性についての説明があり、その後、2 つの実習課題を並行して行った。

実習はまず最初に山本助教の指導のもと、ポリアクリルアミドゲル電気泳動法（PAGE）の原理を学習した上で、マウスの 5 つの臓器から調整したサンプルを各人が実際にゲルに流して電気泳動を行った。参加した高校生はピペット操作やゲルへのアプ

ライなど初めての体験であり、色素がきれいに流れていく様子を興味深く観察していた。

次に、電気泳動中の時間を利用して田原講師の指導のもと、LDH の酵素活性の測定を行った。基質となるビルビン酸濃度を変え、補酵素となる NADH の濃度の時間による変化を吸光度計を用いて測定した。そのデータを実際に各人がグラフ用紙にプロットして酵素の比活性を求め、酵素の重要な基本性質である基質の増加による反応速度の増大を確認した。

その後、電気泳動が終了したゲルを 2 種類の染色法（CBB 染色とホルマザン染色）により染色し、LDH の 5 つのアイソザイムと各臓器ごとに異なるその分布を確認した。タンパクの異なるアイソザイムを明瞭なバンドとして可視化できることに少なからず感動して実験は終了となった。

最後に後藤田教授から各生徒へ今回の修了証が手渡され、体験講義・実習は終了した。

### 効果・成果

本実習を通じて、大学での学びを高校生に体験させ理解させることができたと共に、本学と聖徳学園高等学校との連携強化に繋がった。



## Ⅳ－20. 稲垣高大接続推進室長が都立杉並総合高等学校の課題研究発表会に出席

日 時：令和元年 12 月 24 日  
場 所：都立杉並総合高等学校  
担当教員：稲垣大輔高大接続推進室長

### //// 内容・実績 //////////////////////////////////////

令和元年 12 月 24 日、都立杉並総合高等学校において、「第 14 回課題研究発表会」が開催され、本学からは稲垣大輔高大接続推進室長が出席した。

このプログラムは、1 及び 2 年次に履修した「サクセスプランニング」の集大成として位置づけられ

る 3 年次「課題研究」の成果を全校生徒に発表することと、1 及び 2 年生が 3 年次に履修する「課題研究」の研究内容や発表方法等に関し参考とすることで「サクセスプランニング」及び「課題研究」の充実を図ることを目的として毎年開催され、今年度は 15 名の 3 年生が成果を発表した。

## Ⅳ－21. 都立調布南高等学校と都立羽村高等学校の学校運営連絡協議会に出席

日 時：令和元年 5 月 14 日  
場 所：都立調布南高等学校  
担当教員：ポール・スノードン国際交流センター長

### 内 容

令和元年 5 月 14 日に都立調布南高等学校の第 1 回学校運営連絡協議会にポール・スノードン国際交流センター長が協議委員として出席した。高校生の

進路状況について、近年の大学の入学定員管理の厳格化による希望する進学先への入学が難しくなっていることや、高校の英語教育の変更などについて他の委員とともに協議・意見交換を行った。

日 時：令和元年 6 月 20 日  
場 所：都立羽村高等学校  
担当教員：ポール・スノードン国際交流センター長

### 内 容

令和元年 6 月 20 日午後より、都立羽村高等学校において今年度第一回目の学校運営連絡協議会が開催され、今年度からそのメンバーとなった本学のポール・スノードン国際交流センター長が出席した。スノードンセンター長は、メンバー 8 名のうち、市外及び高等教育機関の唯一のメンバーである。「高校側より、今後生徒たちに 4 年制大学を紹介するこ

とに力を入れていく方針が示されたので、オープンキャンパスへの積極的な参加や、特別視察などへの参加を勧めた。羽村市とは、地域連携でも密接な関係を持っており、都立羽村高等学校の新副校長が杏林 AP ラウンドテーブルのメンバー校から異動してきた方なので、これからの高大接続に大いに期待が持てると思う」と話した。

## Ⅳ－ 22. 総合政策学部 馬田啓一賞を武蔵野大学高等学校生徒が受賞

12月18日、令和元年度馬田啓一賞の授賞式が行われました。この賞は、総合政策学部の馬田啓一名誉教授のご寄付のもと設立され、学生の研究と勉学を奨励するため、毎年、一定の課題を募集し、総合政策学部生と高校生の部に分けて表彰しています。

今年の課題テーマとして、総合政策学部生の部は小島道一著『リサイクルと世界経済 - 貿易と環境保護は両立できるか』（中公新書、2018）の書評で、高校生の部は塚田祐之著『その情報、本当ですか』（岩波ジュニア新書、2018）の書評でした。

高校生の部

優秀賞：水島里佳子さん（武蔵野大学高等学校3年）

馬田先生からは「日本のこと、世界のこと、未来のことを考え、この賞をもらったことを1つのきっかけ、自分自身のバネにして、大きく成長してほしい」と激励の言葉が送られました。



## IV－23. 広報・取材

### 1. 高校教員対象大学説明会で稲垣大輔高大接続推進室長が本学の高大接続事業について説明

令和元年5月28日（火）午後、井の頭キャンパスF棟310教室において、高校教員対象大学説明会が開催され、出席した高校教員106名（高校としては、104校が参加）を前に、稲垣大輔高大接続推進室長が、本学の文科省補助事業「大学教育再生加速プログラム～テーマⅢ（高大接続、通称AP）」について、一連の事業内容を説明した。その中で、この夏休みに高校生を対象にしたアドバンストプレイスメント夏季集中講座や大学教養レベルグローバル関連科目夏季集中講座が開講されることが紹介された。

### 2. AP事業テーマ3「入試改革・高大接続」採択校合同シンポジウムに参加

令和元年10月26日（土）、AP事業テーマⅢ「入試改革・高大接続」採択校合同シンポジウムが、「AP東京八重洲通り」を会場にして、大学、高校、予備校の関係者やその他入試改革、高大接続に関心のある97名の参加者を迎え盛大に開催された。

例年、全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会と合わせ、APポスターセッションとして開催されていたが、今年度は、幹事校である東京農工大学が主導でテーマⅢに採択されている8大学が一同に会し、文部科学省高等教育局専門官からの講演をいただくとともに、各大学の取り組みを口頭発表とポスターセッションによる報告を行った。

本学からは、坂本ロビン外国語学部長、稲垣大輔高大接続推進室長、ポール・スノードン国際交流センター長と、2名の地域交流課職員（高大接続推進担当）が出席し、本学のアドバンストプレイスメントの実施状況など、これまでのAP事業の取り組みについて、坂本学部長が発表を行い、ポスターセッションのブースでは教職員が個々に説明を行った。

本学のAP事業の活動や取り組みに関心を持っていただいた教育関係機関や高校関係者の方がブースを訪れ質疑応答するなど、活発な意見交換をすることができた。

### 3. ポール・スノードン国際交流センター長が愛媛大学・松山大学を訪問

11月8日（金）、ポール・スノードン国際交流センター長と地域交流課高大接続推進担当の職員1名が、本学と同じ「文部科学省 大学教育再生加速プログラムテーマⅢ～高大接続（AP）」に採択された愛媛大学と同一キャンパスが隣接する松山大学を訪問した。

愛媛大学とは、AP事業の今年度のお互いの成果を報告し合い、事業終了後の継続内容等について情報交換を行い、松山大学では地方私立大学でありながら、現在も安定した志願者を集めている同大の学生募集方法等について、貴重な意見を伺った。

## IV－24. 平成30年度の事業報告書の作成と配布

平成30年度を対象とする、「日中英トライリンガル育成のための高大接続」：大学教育  
再生加速プログラムテーマⅢ（高大接続）の事業報告書が完成した。



| 吉林大学 事業報告書<br>目次                                                  |    |
|-------------------------------------------------------------------|----|
| <b>I. ごあいさつ</b>                                                   |    |
| 高次連携がもたらした教育のめざす<br>48 大塚 純一                                      | 1  |
| より発展した大学を目指す高次連携<br>49 高次連携推進部 高次 大塚                              | 2  |
| <b>II. 事業概要・計画</b>                                                | 3  |
| <b>III. 事業実績と成果の概要</b>                                            |    |
| 大学教育再生加速プログラム「テーマⅢ(高大接続)」<br>「日英中トライリンガル育成のための高大接続」<br>平成30年度実績概要 | 7  |
| <b>IV. 事業実績の具体的な内容</b>                                            |    |
| (1) 事業全体の概観                                                       | 10 |
| (2) 高次連携                                                          | 14 |
| 1. 「日英中トライリンガル」の連携                                                | 14 |
| 2. 連携推進部の役割                                                       | 22 |
| 3. 高次連携の推進                                                        | 23 |
| 4. 高次連携の推進とSDGの関わり                                                | 23 |
| 5. 高次連携推進部と意見交換                                                   | 25 |
| (1) 高次連携推進部                                                       | 25 |
| 6. ライフリングセンターの活動実績と成果                                             | 28 |
| Ryofu, Ryofu Center<br>Annual Report 2018-2019                    |    |
| 7. アドバンスト・プレイメントの推進と<br>高次連携                                      | 34 |
| 8. 大学教育レベル「グローバル連携科目」<br>高次生への関わり                                 | 38 |
| 9. グローバル関連科目・GOC関連科目の<br>高次生への関わり                                 | 38 |
| 10. 日英中トライリンガルキャンプの実施                                             | 40 |
| 11. 英語キャンプの実施                                                     | 42 |
| 12. 英語キャンプの成果                                                     | 43 |
| 13. プレゼンテーションコンテストの実施                                             | 44 |
| 14. グローバルAP「英語連環コース」の<br>実施                                       | 46 |
| 15. ELLTと高次連携の実施                                                  | 47 |
| 16. ルーブリックの入学試験での活用                                               | 48 |
| 17. 高次生での活用                                                       | 48 |
| (2) 高次連携                                                          | 48 |
| 18. 高次生と高次生の高次連携プログラム活動                                           | 48 |
| 19. 高次生と高次生の高次連携プログラム活動<br>生徒がインターンシップ生の実績                        | 48 |
| 20. 高次生と高次生の高次連携プログラム活動<br>高次生の実績                                 | 50 |
| 21. 高次生と高次生の高次連携プログラム活動<br>高次生の実績                                 | 51 |

## ＜会議開催日程一覧＞

### Ⅳ－25. 杏林 AP 推進委員会(第27回～第29回)

#### 令和元年度 第27回 杏林 AP 推進委員会

日 時：令和元年5月13日（月）11：00～11：45  
場 所：杏林大学三鷹キャンパス 本部棟11階 会議室

#### 令和元年度 第28回 杏林 AP 推進委員会

日 時：令和元年10月7日（月）11：00～11：45  
場 所：杏林大学三鷹キャンパス 本部棟11階 会議室

#### 令和元年度 第29回 杏林 AP 推進委員会

日 時：令和2年2月10日（月）14：45～15：15  
場 所：杏林大学三鷹キャンパス 本部棟11階 会議室

## IV－26. 高大接続推進委員会(第42回～第45回)

### 令和元年度 第42回 高大接続推進委員会

日 時：令和元年4月3日（水）16：20～17：10  
場 所：杏林大学井の頭キャンパス C棟5階 大会議室

### 令和元年度 第43回 高大接続推進委員会

日 時：令和元年6月5日（水）16：20～17：10  
場 所：杏林大学井の頭キャンパス C棟5階 大会議室

### 令和元年度 第44回 高大接続推進委員会

日 時：令和元年9月4日（水）16：20～17：10  
場 所：杏林大学井の頭キャンパス C棟5階 大会議室

### 令和元年度 第45回 高大接続推進委員会

日 時：令和2年1月8日（水）16：20～17：10  
場 所：杏林大学井の頭キャンパス C棟5階 大会議室

## V. 事業の評価：平成 30 年度事業を対象に

### 第三者評価委員会の開催と評価結果

令和元年 9 月 28 日（土）14 時より、大学教育再生加速プログラム（AP）テーマⅢ（高大接続）の第三者評価委員会が、井の頭キャンパス C 棟 5 階の応接室で行われた。

外部評価委員として、中学・高等学校の校長（高校教育全般）、大学教授（英語関係）、高校教諭（中国語関係）の 3 名の先生方をお招きし、本学からは、大瀧純一学長、ポール・スノードン国際交流センター長、稲垣大輔高大接続推進室長、青柳貴徳井の頭事務部副部長、依田千春地域交流課長が出席した。

稲垣室長より、杏林 AP ラウンドテーブル、英語キャンプ、日英中トライリンガルキャンプ、ループリック、アドバンストプレイスメント等、平成 30 年度の本事業の実績について、説明と報告が行われた。

その後、3 委員から本事業に関する評価について講評・意見等が述べられた。各委員からは「毎年度、杏林 AP ラウンドテーブルやアドバンストプレイスメント、日英中トライリンガルキャンプなど継続的に取り組み、その取り組みが広がっていることは評価できる」、「ループリックの入試への活用や、アドバンストプレイスメントの実施において夏期集中講座に切り替えるなど、高校生がより参加しやすい運営に切り替えた点は素晴らしい」など、概ね高い評価をいただくことができた。その一方で、「これからの教育は一方的な教科書だけの授業ではなく、PBL など双方向授業を実践していく必要がある。大学や企業等、横の広がりを展開するなど知の結集をしていかななくてはならない」、「英語キャンプ、日英中トライリンガルキャンプ、英語プレゼンテーションコンテストなどの興味深い取り組みに関連高校教員の見学を取り入れてみてはどうか」「アドバンストプレイスメントに関する単位互換協定を今後もより多くの大学の参加・拡充に向けてコアとなることを期待する」などといった意見が出された。

このように外部評価委員と本学関係者と AP 事業推進のための建設的な意見交換ができ、約 90 分の委員会は終了した。

本学の取り組みを高く評価していただく一方で、厳しいご意見もいただくことができ、今後もより一層の事業推進に向けて努力してまいります。



第三者評価委員会の評価報告書は下記のとおりである。

大学教育再生加速プログラム テーマⅢ（高大接続）  
平成 30 年度事業  
杏林大学「日英中トライリンガル育成のための高大接続」第三者評価報告書

【第三者評価委員会開催】

日 時：令和元年 9 月 28 日（土） 14 時～15 時 30 分  
場 所：杏林大学井の頭キャンパス C 棟 5 階 応接室  
評価委員：委員長 平方邦行氏（工学院大学附属中学校・高等学校 校長）  
委員 鈴木 栄氏（東京女子大学 教授）  
委員 藤井達也氏（埼玉県立和光国際高等学校 教諭）

杏林大学側出席者：

大瀧純一学長、ポール・スノードン国際交流センター長、稲垣大輔高大接続推進室長、  
青柳貴徳井の頭事務部副部長、依田千春地域交流課長

【評価報告】

令和元年 9 月 28 日（土）14 時より、大学教育再生加速プログラム（AP）テーマⅢ（高大接続）の第三者評価委員会が、井の頭キャンパス C 棟 5 階の応接室で行われました。

外部評価委員として、中学・高等学校の校長（高校教育全般）、大学教授（英語関係）、高校教諭（中国語関係）の 3 名の先生方をお招きし、本学からは、大瀧純一学長、ポール・スノードン国際交流センター長、稲垣大輔高大接続推進室長、青柳貴徳井の頭事務部副部長、依田千春地域交流課長が出席しました。

稲垣室長より、杏林 AP ラウンドテーブル、英語キャンプ、日英中トライリンガルキャンプ、ルーブリック、アドバンストプレイスメント等、平成 30 年度の本事業の実績について、説明と報告が行われました。

その後、3 委員から本事業に関する評価について講評・意見等が述べられました。各委員からは「毎年度、杏林 AP ラウンドテーブルやアドバンストプレイスメント、日英中トライリンガルキャンプなど継続的に取り組み、その取り組みが広がっていることは評価できる」、「ルーブリックの入試への活用や、アドバンストプレイスメントの実施において夏期集中講座に切り替えるなど、高校生がより参加しやすい運営に切り替えた点は素晴らしい」など、おおむね高い評価をいただくことができました。その一方で、「これからの教育は一方的な教科書だけの授業ではなく、PBL など双方向授業を実践していく必要がある。大学や企業等、横の広がりを展開するなど知の結集をしていかななくてはいけない」、「英語キャンプ、日英中トライリンガルキャンプ、英語プレゼンテーションコンテストなどの興味深い取り組みに関連高校教員の見学を取り入れてみてはどうか」「アドバンストプレイスメントに関する単位互換協定を今後もより多くの大学の参加・拡充に向けてコアとなることを期待する」などといった意見が出されました。

このように外部評価委員と本学関係者と AP 事業推進のための建設的な意見交換ができ、約 90 分の委員会が終了しました。

本学の取り組みを高く評価していただく一方で、厳しいご意見もいただくことができ、今後もより一層の事業推進に向けて努力してまいります。

【添付資料】

- ・第三者評価書（H30 年度）平方
- ・第三者評価書（H30 年度）鈴木
- ・第三者評価書（H30 年度）藤井

【評価のための根拠資料】

- ・平成 30 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書
- ・日英中トライリンガル育成のための高大接続 事業報告書 平成 30 年度

以上

（注）アドバンストプレイスメントは、米国 The College Board の登録商標です。

## VI. 事業推進組織 委員一覧

### 令和元年度 杏林 AP 推進委員会 委員一覧

|           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 大瀧純一      | 学 長                     |
| 渡邊 卓      | 医学部長                    |
| 神谷 茂      | 保健学部長                   |
| 大川昌利      | 総合政策学部長                 |
| 坂本ロビン     | 外国語学部長                  |
| ポール・スノードン | 国際交流センター長               |
| 稲垣大輔      | 高大接続推進室長（外国語学部教授）       |
| 荒木利直      | 事務局長                    |
| 島津敏雄      | 広報・企画調査室長               |
| 黒田幸司      | 大学事務部長                  |
| 森 芳久      | 井の頭事務部長                 |
| 青柳貴徳      | 井の頭事務部副部長（事務局）          |
| 依田千春      | 地域交流課課長                 |
| 晝間大郎      | 地域交流課（高大接続推進担当）課次長（事務局） |

### 令和元年度 高大接続推進委員会 委員一覧

|     |             |                         |
|-----|-------------|-------------------------|
| 室 長 | 稲垣大輔        | 外国語学部                   |
|     | ポール・スノードン   | 国際交流センター                |
|     | 栗崎 健        | 医学部                     |
|     | 亀崎路子        | 保健学部                    |
|     | 岡村 裕        | 総合政策学部                  |
|     | 高田京子        | 総合政策学部                  |
|     | 海谷千波        | 外国語学部                   |
|     | 藤田由香利       | 外国語学部                   |
|     | ジェイソン・サマービル | 外国語学部                   |
|     | 黒田幸司        | 大学事務部                   |
|     | 森 芳久        | 井の頭事務部                  |
|     | 浅野 稔        | 医学部事務部                  |
|     | 清水みさ子       | 教務課                     |
|     | 田澤かおり       | 教務課                     |
|     | 酒井あかね       | 広報・企画調査室                |
|     | 後藤達也        | 医学部事務課                  |
|     | 堤 康輔        | 教務課                     |
|     | 青柳貴徳        | 井の頭事務部（事務局）             |
|     | 依田千春        | 地域交流課課長                 |
|     | 晝間大郎        | 地域交流課（高大接続推進担当）課次長（事務局） |
|     | 安達歩美        | 地域交流課（高大接続推進担当）（事務局）    |

---

文部科学省「大学教育再生加速プログラム テーマⅢ(高大接続)」平成26年度採択  
日英中トライリンガル育成のための高大接続

2019年度 事業報告書

---

発 行 日 令和2年7月

編集発行 杏林大学 高大接続推進室

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1

TEL 0422-47-8000 FAX 0422-47-8054

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/trilingual/>

---

